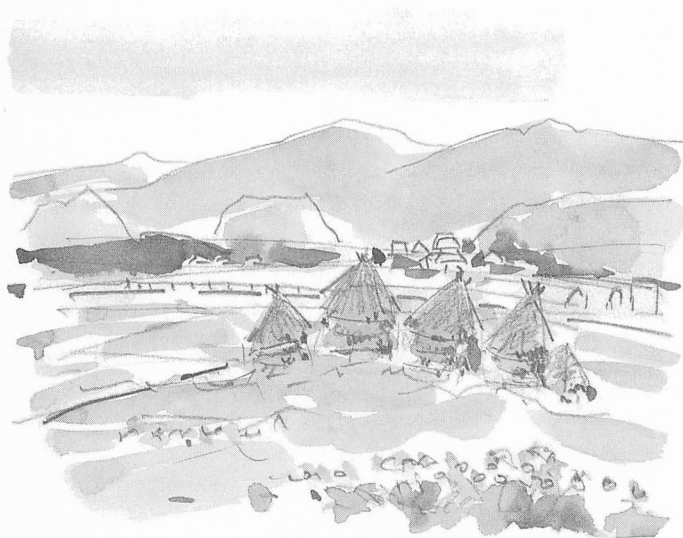
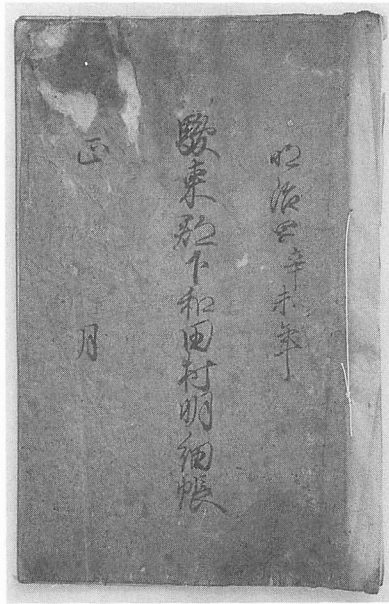


第二章
村々の概況



皇
延宝五年七月 下和田村明細帳(竪)
(一六七七)



(表紙)

明治四辛未年

駿東郡下和田村明細帳

正月

御殿場御札場迄三里五拾八間
駒門村迄壹里拾町
須山村迄壹里貳間
一 当村の道法
今里村迄貳拾町拾貳間

佐野村御高札場迄貳里三町拾貳間
水窪御拾分一場迄貳里三拾五丁拾貳間
当村の沼津御高札場迄五里半余御座候
三嶋迄四里余御座候

北南江貳百拾間・西東江百六拾間

一 下和田村之内
村中ニ三間之橋御座候

当村之用水村中ニ御座候

一 百姓家積(続)
村家ニ而御座候

一 百姓家数合三拾八軒

内

壹軒 御鳥見

貳軒 村足輕

七軒 本百姓

貳拾貳軒 小百姓

五軒 無田
 壹軒 名主

一 田畑反別拾八町七反四畝壹歩

内壹反八畝歩 寺 免

一 田方九畝歩 寅新田

一 畑方拾八町四反七畝壹歩

高九拾三石七斗九升八合

一 山畑壹町五反七畝貳拾歩

一 馬数合百壹疋

一 下和田村々山之峠迄壹里貳拾五町十六間横貳拾壹町、

此山村々西ニ御座候、槻・杉茂立申候、其外雑木何木

ニよらず竹・萱迄沼津・三嶋江取出シ売、百姓共家職

ニ仕候、先年者御拾分一も出し不申候、拾貳三年以前

ノ御十分一指上ヶ取出し売申候、先年々余村之もの壹

人茂入不申、当村計ニ而支配仕候

一 野山草蒔場、当村々北江須山境迄拾五六町・東江今里

境迄拾七八丁、此野之内ニ山畑も御座候、右下和田村

分之境、北ハ棚之沢・西ハまこ岩峠・南ハしゃくし小

屋嶽・東ハ石沢迄、境之廻り五里貳拾五町三間御座候

一 山役之御米五斗毎年納申候

一 薪貳拾壹駄、此金三分銀七匁五分、年ニ替儀御座候

一 莖三枚七分七リン、銀九分四リン毎年納申候

一 繩三拾三房九分三リン、銀六匁三分毎年納申候

一 ぬかわら銀四匁五分式リン毎年納申候

一 殿様江御礼錢毎年出し申候

一 正月殿様御礼、御厨惣代ニ參上致候路金出し申候

一 御殿場御蔵番給六升九合七夕毎年出し申候

一 御用之柿渋、御配符次第ニ毎年納申候

一 御用之薯蕷、御配符次第毎年納申候

一 御用之鳥持(網)、御配符次第毎年納申候

一 御用之漆葉(符次)、御配符次第毎年納申候

一 御用之蕨、御配符次第毎年納申候

一 御用之桝樽、御配符次第毎年納申候

一 鷓明松萱(監明)、御配符次第毎年出し申候

一 御殿場御屋敷御普請萱納申候

一 御殿場・下土狩御蔵普請木萱納申候

一 御拾分一場御普請木萱、御配符次第納申候

一 御鷹匠衆御拵指之賄人足、御配符次第出し申候

一 箱根仙石原矢倉沢川村御番所之柵木、御配符次第相勤申候

一 御厨領之内堀川除普請人足、御配符次第出し申候、但し人足一人ニ御扶持米式合五夕被下候

一 御厨領之内橋引人足、御配符次第出し申候

一 須山中畑々槻材木又ハ木地くれ御出し被成候節ハ、御配符次第ニ人足出し申候儀も御座候

一 当村柵炭竹之下村迄付出し、金子壹両ニ付八拾俵之御直段ニ金子被下候

一 紙かぞ金子一分ニ五尺廻拾式抱之御直段ニ金子請取申候

一 当村氏神三社立

神明 高サ九尺
浅間宮 横 六尺
足高

但し板造ニ御座候、此宮村初々御座候申伝候

森 北南へ四十間 但し 九尺廻樫木一本
西東へ十八間 外ニハ小木計御座候

一 愛宕森 北南四間 神木 壹丈五尺廻こなら
西東三間 壹本外ニ小木計御座候

宮立無御座候

一 山之神宮立 高サ壹尺五寸 此宮村初より御座候与申
横 壹尺 伝候

森 北南へ十式間 但し 壹本七尺廻りこなら木外ニ
西東へ八間 小木計御座候

一 大六天宮立 高き壹尺二寸 但し 此村初より御座候与
横 八寸 申伝候

森 北南へ二十六間 但し 一本七尺廻り之槻御座候
西東へ十八間 外ニ小木計御座候

一 辻堂本尊観音、木仏御長壹尺三寸座仏ニ而御座候、御作何れ共しれ不申候、此堂式間四面何年以前ニ立申候儀も不存候

一 浄土宗無量山仙寿院、本尊阿弥陀座仏御長壹尺八寸新

木仏ニ而御座候、此寺何年以前ニ立申候儀もしれ不申候、本寺ハ武州江戸増上寺ニ而御座候

一寺内ニ薬師堂式間四面、本尊木仏御長式尺式寸立仏ニ

而御作何れ共しれ不申候、村初メ御座候と申伝候

(半丁欠カ)

御知行所ニ式年程罷成、其後御領所ニ罷成、其以後駿河

大納言様御知行所ニ九年程罷成、其以後御領所ニ壹年罷

成、其以後稲葉美濃守様・同姓丹後守様三年罷成、其後

殿様御知行所ニ罷成申候

延宝五年

巳ノ七月

右明細帳御調ニ付、古録写奉書上候通相違無御座候、以上

明治四辛未年

正月

下和田村

沼津

御役所

(裾野市下和田 杉本清住氏所蔵)

四 延宝五年一月 茶畑村明細帳(竪)

(表紙)

延宝五年

御厨下筋茶畑村

巳十一月

御殿場御札場迄四里拾式町式拾式間
下土狩御蔵場迄壹里拾式町式拾六間

第2章 村々の概況

一 百姓家数合百貳拾壹軒

右之外伊豆境ニみの下并市ノ瀬と申居村式ヶ所御座候

一 田畑反別百拾町六反拾歩

内田畑四反七畝拾壹歩

寺社免

一 当村より道法

村々巳午ノ方麦塚村迄七町拾六間

村々未申ノ方水窪村迄廿壹町五拾貳間

村々戌亥ノ方佐野村迄拾九町五拾六間

村々子丑ノ方公文名村迄拾貳町廿貳間

村々辰巳ノ方伊豆佐野村迄七八町
豆州三嶋宮之前御札場迄壹里貳拾町四拾九間

駿州沼津三枚橋御札場迄貳里貳拾町四拾七間

一 茶畑村之内

東西千三百五拾七間
南北七百六拾六間

一 百姓家統五通りニ罷有候

わけ

中尾組

東西へ百貳拾四間
南北へ百五拾貳間

家数貳拾壹軒

滝頭組

東西へ六拾壹間
南北へ貳百五拾八間

家数貳拾五軒

中丸組

東西へ百拾貳間
南北へ貳百間

家数貳拾八軒

茶畑組

東西へ九拾四間
南北へ五拾八間

家数拾八軒

平松新田

東西へ貳拾三間
南北へ四拾間

家数七軒

内

貳軒

名主

三拾七軒

本百姓

貳拾三軒

中百姓

四拾壹軒

柄在家

壹軒

本百姓之内
村足輕

壹軒

本百姓之内
白樂

壹軒

中百姓之内
白樂

壹軒

柄在家之内
白樂

壹軒

柄在家之内
医者

壹軒

柄在家之内
桶屋

壹軒

柄在家之内
定使

九軒

草切

壹軒

平松新田
組頭

壹軒

草切之内
桶屋

田方五拾壹町九反壹畝歩

拾三町九反四畝三步 箱根堀貫水ニ而年々畑成田分

内拾五町八反余箱根堀貫水掛り畑成田

残拾壹町七反九畝壹歩

わけ

一 高五百式拾九石四斗式升七合

先高

九畝廿三步

亥年川成并丑年溝代

内五拾式石三斗

平松新田分

壹畝廿六歩

寅年屋敷ニ成

一 高七百拾四石七斗式升八合

今高

拾九町六反五畝拾式歩

水田ニ而麦作不仕候

内百六石八斗七升七合

平松新田分

拾町九反八畝廿八歩 麦作仕候分

一 野畑三町壹反九畝廿八歩

本村分

畑方三拾八町三反五畝廿壹歩

一 野畑九反壹畝拾七歩

子年見出し

わけ

一 下々田八畝廿九歩

子年見出し

拾三町八反壹畝廿歩

箱根堀貫水ニ而亥子兩年畑成

一 野畑三反廿七歩

平松新田分

田

一 下畑九反三畝拾六歩

子年見出し

四畝廿三步

子年地水ニ而畑成田

一 馬数合百式疋

内式疋牛

壹反式畝五歩

亥子兩年堰溝代

一 当村用水、此水本公文名村境瀧頭堰ヲ取申候、但瀧頭・中丸・茶畑・中尾ニ而遣申候、此道法式三町、又

残式拾四町三反七畝三步

者七八町程も御座候、則本田壹町式反余□畑成田

一 畑反別式拾五町八反五畝廿四歩

平松分

わけ

三町余へかけ申候、右之本川段々公文名村□參、茶畑

壹反式畝廿歩

亥年々年々堰代

村田地中を通り、伊豆境之川へ落合申候、此川筋ニ高

參茶畑村之内八幡脇にて三間川之水取申候、八幡脇

段々道法式三町又ハ六七町程參、茶畑村分畑成田へか

け、茶畑村之内平松新田畑成田拾三町余へかけ申水、

佐野堰を道法式拾四五町又ハ三拾丁も參、三間堀より

かけ申候、則平松新田用水ニも遣申候

一 佐野堰場所、長五拾六間皆石岩之上ニ而籠せきニ仕候、

水節々出申度籠押なかし日数五十日之内五度も三度も

人足出し仕直し申候、右何茂井堰普請之儀御 公儀様

より御奉行人被仰付、御配符次第村々を人足出普請仕

候、但人足老人ニ付一日ニ御扶持米式合五夕宛被下候

一 平松新田、居村を西之方三間川通り申候、則川を西ニ

座頭之供養塚石塔壹つ御座候并川を東之方平松と申九

尺廻り之松壺本御座候

一 茶畑村なかに山壺ツ御座候、此山大サ東西へ八拾□□、

南北へ百式拾六間、則山之上ニ畑御座候

一 公文名村境茶畑村之内長五間半之橋壹ヶ所、先年御公

儀様を被下候并引人足村々江被仰付、御奉行人も被仰

付被下候

一 馬之草蒔場、当村を東山公文名村境かるとう坂・あい

しやう原・神なり松・はたほこ・大谷・もぢり杉・し

んなし・かなが窪・ごさの尾・いち場・たいら・牛

坂・まごめ・うしろ山・丸塚・瀧之沢を市之瀬筋迄、

此道法当村を壺里又ハ壺里拾四五町程御座候、右之山

ニ而草・かり敷・かやもかり申候

一 薪取申場、当村東山、北ハはたほこ・大谷を南ハ伊豆

境大沢迄、東ハいもたいら・山伏峠・りうのふか嶽并

そぶ迄、西ハ右之草山境ふとか尾筋迄、此□□当村を

壺里半又ハ式里余も御座候

一 右之内もちり杉・はたほこ・大谷・しんなし・ごさの

尾、此筋へ公文名村入込ニ參候

一 同はたほこ・大谷筋へ久根村之内横道長尾之者入込ニ

參候、久根村之内下村之者ハ公文名村一所ニも入申候

一 同大谷筋へ佐野村入込ニ參薪計取申候

一 同大谷筋へ伊豆嶋田村之者薪取申儀も御座候

一同市之瀬道筋へ麦塚村入込ニ參、薪・かや・苜敷・草
かり申候

一同市之瀬道筋へ伊豆嶋田村之内堰原ニツ屋新田之者參、
薪計取申候

一 当村之内中丸之者、佐野下原ニ而馬之草かり申儀も御
座候

一 当村之者、伊豆佐野山江參、馬草苜敷かり申儀□□□

一 平松新田之者、沼津領富沢村并定輪寺西山へ參、馬
草・苜敷・かやかり申儀ニ御座候、此道法老里又ハ老
里半も御座候

一 当村百姓、作之間ニ右之当村山ニ而薪伐、三嶋・沼津
へ付出し売申候、近年ハ伐荒シ能木無御座候

一 御蔵米払馬、御配府次第馬ヲ出し、三嶋・沼津へ付届
ケ申候

一 箱根御番所御扶持方米參候節ハ、御配府次第付届ケ申
候

一 御殿場へ御米御用之節、御配符次第下土狩御蔵より付

届ケ申候

一 井堰川除人足御割付次第毎年出し申候、但人足老人ニ
付一日ニ御扶持米式合五夕宛被下候

一 下土狩御蔵普請之節ハ、御割付次第竹木菅縄人足出し
申候

一 同御蔵柵木并繕人足共ニ出し申候

一 水窪・伊豆嶋田御拾分一場御普請之節、竹木か^や縄人
足出し申候

一 薪諸色三嶋・沼津へ出シ申節ハ、御拾分一指上ケ通り
申候

一 箱根御関所柵木并繕人足共ニ御配符次第出シ申候

一 御殿場御屋敷御破損普請之節、縄竹人足御配符次第出
シ申候

一 神山村大橋懸り申節、御配符次第人足出し申候

一 村々橋木引人足、御配符次第出し申候

一 御鷹匠衆御厨下筋ニ被成御座候節ハ、御宿ニて入用之
人足御配符次第出し申候

一 御用之鳥もち、御配符次第毎年納申候

一 御用之山枅(榎カ)、御配符次第ニ毎年納申候、但山枅式升五

合ニ付代百文ツ、被下候

一 御用之渋柿、御配符次第毎年納申候

一 富士山麓カノ槻御材木出申節、引人足御配符次第下筋(付)ノ

出し申候、則此人足山本ニテ牛ヲ雇、日一金勘定次第

出申候、則 御公儀様カノ御扶持方被下候、牛カニ付

一日ニ大豆カ升、牛方カ人ニ付一日ニ御ふち方七合五

夕ツ、被下候

一 御用之山芋、御配符次第毎年納申候

一 山手役米、カ石宛毎年御蔵へ納申候

一家並薪之代金カ式両余、毎年納申候、但家数ふるへりニ

て相違之義も御座候

一 ぬかわら縄蒔之代金カ壹両三分余、毎年納申候

一 御国廻り衆、十年以前寛文七年未ノ年御通被成候覺

溝口源右衛門様

山形孫四郎様

堀主 膳様

右三人衆、豆州三嶋カノ伊豆嶋田・佐野通り神山ニテ馬

□御殿場・竹之下通り相州へ御通り被成候、則人馬神

山村へ相詰、荷物諸事竹下迄(ツ)付送り申候

一 箱根筋道橋造り人足出シ申儀も御座候

一 酒包舟橋懸り申節、人足出シ申儀も御座候

一 朝鮮人御通り被成候節、人馬小田原相詰、登り小田原

ノ三嶋迄、下りハ小田原カノ藤沢迄、御朱印之人馬駄賃

伝馬其外小田原ニ而御用之人足出シ相勤申候

一 御 上洛被為遊候節、御登りハ小田原カノ三嶋迄、御下

りハ小田原カノ藤沢迄人馬相立、其外小田原ニテ御用之

人足并名主共小田原へ罷越相勤申候

一 富士浅間 宮立高サ七尺 横 四尺 但板葺ニ而御座候

此宮村始カノ御座候様ニ申伝候

七尺廻り松九本

五尺七八寸廻りカ杉カ本

森東西式拾間 南北六拾カ間

但五尺八寸廻りカ檜カ本 七尺五寸廻りカいカうカ本

外ニ小木共御座候

下々田三畝拾歩、右之宮免御指置

一 八幡 宮立高サ三尺 横壹尺六寸 但板葺ニ御座候

右之八幡村始々御座候様ニ申伝候、(縁起)ゑんぎも無御座候

森 東西五間 五六尺廻り松式本
南北式拾五間 但五尺廻り杉壹本
外ニ小木共御座候

下畑式畝廿歩、右之宮免御指置

一 八幡 宮立高サ式尺八寸 横三尺六寸 但板葺ニ御座候

右之八幡村始々御座候様ニ申伝候、ゑん儀も無御座候

但神之木七尺廻り之杉壹本御座候

一 十二天 宮立高四尺三寸 横式尺八寸 但板葺ニ而御座候

右之宮村始々御座候様ニ申伝候、ゑん儀も無御座候

森 東西拾間 七八尺廻り松四本
南北拾五間 但七尺廻りしい壹本
外ニ小木共御座候

一 神明 宮立高式尺三寸 横壹尺式寸 但板葺ニ而御座候

右之宮村始々御座候様ニ申伝候、ゑん儀も無御座候

森 東西四間 七八尺廻り松三本
南北七間 但外ニ小木共御座候

一 大日堂 よこ式間 立三間 但かや葺ニ而御座候

右之堂村始々御座候様ニ申伝候、ゑん儀も無御座候、

則大日如来御長三尺壹寸立像にて古仏ニ御座候得共、

何之御作共知レ不申候

森 東西八間 六七尺廻り松式本
南北拾五間 但外ニ小木共御座候

一 駒方 宮立高式尺 横壹尺式寸 但板葺ニ而御座候

右之宮村始々御座候様ニ申伝候、ゑん儀も無御座候

森 東西拾間 六七尺廻り松四本
南北八間 但外ニ小木共御座候

一 不動堂 内ニ宮立高三尺式寸 横式尺五寸 但板葺ニ而御座候

右之堂村始々御座候様ニ申伝候、ゑん儀も無御座候

森 東西拾四間 五丈五尺廻り槻壹本
南北四拾間 但五尺七尺廻り松四本
外ニ小木共竹も御座候

一 天神 宮立高式尺六寸 横壹尺六寸 但板葺ニ而御座候

右之宮村始々御座候様ニ申伝候、ゑん儀も無御座候

森 東西拾三間 但小木共御座候
南北三間

一金山 宮立高三尺貳寸 横貳尺 但板葺ニ而御座候

右之宮村始々御座候様ニ申伝候、ゑん儀も無御座候

森 東西拾間 南北八間 但六七尺廻り松式本 外ニ小木共御座候

一舎護神 宮立高三尺 横壹尺八寸 但板葺ニ而御座候

右之宮村始々御座候様ニ申伝候、ゑん儀も無御座候

森 東西五間 南北拾三間 但小木共御座候

御座之尾 一山神 宮立高壹尺八寸 横壹尺 但板葺ニ而御座候

右之宮村始々御座候様ニ申伝候、ゑん儀も無御座候

森 東西貳拾八間 南北拾四間 但七八尺廻りしいの木式本 外ニ小木共御座候

宮内 一山神 宮立高壹尺八寸 横壹尺 但板葺ニ而御座候

右之宮村始々御座候様ニ申伝候、ゑん儀も無御座候

森 東西八間 南北貳拾間 但三尺四尺廻り松四本 外ニ小木共御座候

見おろし 一山神 宮立高貳尺壹寸 横壹尺壹寸 但板葺ニ而御座候

右之宮村始々御座候様ニ申伝候、ゑん儀も無御座候

森 東西拾間 南北拾貳間 但六尺四五寸廻り松三本 外ニ小木とも御座候

市之嶺 一山神 宮立高貳尺 横壹尺 但板葺ニ而御座候

右之宮村始々御座候様ニ申伝候、ゑん儀も無御座候

森 東西四間 南北八間 但六尺廻り松式本 外ニ小木共御座候

一時宗遊行派南長山願称寺、本尊座像之弥陀御長三尺、

木仏ニ而春日之御作ニ御座候、此寺開山豆州三嶋西福

寺々但阿弥と申沙門參、延文元^{丙午}開關仕候、当年迄

三百貳拾壹年之寺ニ而御座^候、開山方当住迄拾九世、

本寺相州藤沢清浄光寺ニ而御座候

茶畑村

延宝五年 名主 甚右衛門

巳十一月 同 三之丞

組頭 留兵衛

同 惣左衛門

同 傳左衛門

組頭 新兵衛

同 文左衛門

同 佐右衛門

平松新田

組頭 徳右衛門

安田勘左衛門様

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

翌 (一六八六)
貞享三年四月一日 須山村指出帳

(表紙共二巻に写す)

貞享三年

駿州駿河郡御厨領須山村御指出帳

寅ノ四月十五日

駿州駿河郡 御厨領須山村

一 高百四拾九石式斗九升壹合

此反別式拾六町四反九畝拾歩

此記

上畑六町壹反八畝式歩

内式反三畝六歩

子ノ年屋敷ニ成

分米四拾三石式斗六升五合

石盛七ツ

中畑七町式畝拾七歩

内壹反壹畝式拾式歩

子ノ年屋敷ニ成

分米四拾式石壹斗五升四合

石盛六ツ

下畑拾壹町四反九畝式拾九歩

内七畝拾歩

子年屋敷成

分米四拾五石九斗九升九合

石盛四ツ

屋敷壹町七反八畝式拾式歩

内五畝歩

名主被下

分米拾七石八斗七升三合

石盛拾ヲ

高合百四拾九石式斗九升壹合

外屋敷三畝拾五歩

子年見出シ

石盛無御座候

野畑拾七町四反八畝式拾七歩

石盛無御座候

野畑三反九歩

子年見出シ

石盛無御座候

一 上納□壹俵ニ付本升三斗七升入

但シ、五年以前戌年迄三斗五升ニ上納仕候へ共、

亥年御用捨三斗七升之勘定御立被下、御廻

り(シカ)三斗九升五六合迄

一口米本石壹石ニ付三升宛

一口永本永壹貫文ニ付三拾文宛

但シ、五年以前戌年迄ハ三斗五升ニ上納仕候得

共、亥年御用捨三斗七升之勘定御立被下、

御廻シ三斗九升五六合々四斗迄

一大豆八石五升

此代永壹貫六百拾文 但シ、永壹貫文ニ五石替

右大豆毎年小田原御藏江買納仕候

一山役本米壹石三斗宛毎年御殿場御藏江買納仕候

一家並薪四拾貳駄

但シ、本百姓四拾五軒ニ而三拾三駄、子年新屋

敷之者貳拾壹軒ニ而九駄

此金壹両三分宛毎年納申候、直段金壹両ニ付貳拾四

駄替

一蕙七枚壹分八厘

高百石ニ付五枚、金壹両ニ付貳百四拾枚買

此銀壹匁七分九厘宛毎年納申候

一繩六拾四房六分七厘

高百石ニ付四拾五房、金壹両ニ付三百貳拾房買

此銀拾貳匁壹分貳厘宛毎年納申候

一糠藁、高千石ニ付金壹両宛

此銀八匁六分貳厘宛毎年納申候

一浮役村足輕壹人ニ付高拾石宛、拾石ノ内ハ持高有次第

御引被下

一名主之儀、高役三拾石御引被下候、三拾石ノ内有次第

御引被下、浮役出分

一御年貢米、本石拾石ニ付五升宛、五厘引と申名主ニ被

下候

一永本永壹貫ニ付五文宛、五厘引と申名主ニ被下候

一御用之つけわらひ式束四分宛、毎年納申候、但三尺廻

り

一鞆たいまつ、すゝき五尺廻り五束宛毎年納申候

- 一 御殿御屋敷破損御入用之道具、被 仰付次第納申候
- 一 仙石原御番所柵木、御割附次第納申候
- 一 水窪・伊豆島田両所御拾分一場道具、被 仰付次第納申候
- 一 御役人様方御通り之節、人馬御用次第相立申候、御泊り被成候得ハ、薪・野菜為持、賄人足相立出申候
- 一 柿渋京升壹斗八升五合宛、毎年御配^(符)附次第御屋敷江納申候
- 一 御鷹匠衆・御犬引衆・御餌指御越之節、御指凶次第薪・野菜為持賄人足出申候、尤鳥之儀村ニ而被遣候義も御座候
- 一 殿様江御厨惣代之御礼、毎年正月上^{下筋老人}筋^{筋老人}江戸江罷越候、仕錢ハ御厨中々出シ申候
- 一 井堰川除人足被 仰付次第出シ申候
- 一 殿様御殿場江御着被為遊候節ハ、被 仰付次第賄人足出申候
- 一 御巡見衆様御通り之節、人馬被 仰付次第出シ申候
- 一 朝鮮人御通り之節、箱根道作人足被 仰付次第出シ申候
- 一 殿様御用木御取^(被欠之)遊候節、牛引杣日用賃錢商人^(並)并被下候、牛方壹人御扶持方米七合五夕、牛壹疋ニ御扶持大豆壹升五合宛被下置候、牛壹疋ニ付錢三百文宛百姓前々出シ申候
- 一 百姓家作仕候節、槻材木願申上候得ハ被下置候、尤曰木馬舟も申請候并内林居敷式拾式年以前巳年々御免ニ而御座候
- 一 寺社ニ杉・檜御座候而抔木仕度節、奉願候得ハ被下置候
- 一 百姓地之内ニ御座候杉・檜・槻、家作仕候節奉願申請候
- 一 村次人馬被 仰付次第出シ申候、次申村ハ印野村・坂妻村・下和田村ニ而御座候
- 一 駒出来仕候得ハ、式歳年御見分被成、代金被下売上申候

- 一 当村分之山十里木富士郡之境御座候、富士山長岸あき
 木塚檜石流尾岩水十里木愛鷹山花之木尾しほ若嶽のこ
 きり嶽、此筋富士郡と境ニ而御座候、拾八年以前酉ノ
 年富士郡と境論仕候得共、富士郡を数通之証文此方江
 取置御座候間、差上申候得ハ理分ニ被 仰付候
- 一 当村分之山、大沢入と申所を杉丸太小田原御用ニ数度
 取被成候、同檜御木も杉ニ而御取被成候
- 一 当村と下和田村と山境、南沢之嶽をほうきわらの岸、
 下和田村之上棚ノ坂迄
- 一 村境、東ハ駒門村、西ハ富士郡、南ハ下和田村、北ハ
 印野村・板妻村・神場村ニ而御座候
- 一 薪・萱・すゝき・馬草、当村分之山ニ而取申候
- 一 百姓諸作耕作之間ニ薪伐、沼津・三島江付出シ売買仕
 候、拾分一水窪村ニ而出シ申候、十里木之者之儀ハ富
 士郡之内瀬古・吉原江薪出シ売申候、御拾分一ハ無御
 座候
- 一 当村之儀ハ先年を富士山南方寺と申、駿州・豆州之内
 を富士山參詣之導者賄宿仕来申候付、右兩國之内ニ旦
 那場少々宛御座候而、毎年旦那廻り仕候
- 一 鳥もち、先年ハ納申候得共、六年以前酉年を御免ニ而
 納不申候
- 一 薯蕷、先年ハ納申候得共、五年已前戌年を御免ニ而納
 不申候
- 一 御売付木、願次第年々御借被遊候、直段之儀ハ其年之
 相場ニを被 仰付候
- 一 箱根小田原町御伝馬金壹両
- 一 六年割利足壹割半ニ年々御借り仕候、済残御借
 仕罷在候
- 一 御殿場御蔵番給米、八升八合式夕宛毎年出シ申候、但
 本升
- 一 百姓内林之内ニ而柶少々御座候、炭ニ焼、一三八ニ而
 金壹両ニ八拾俵替、竹下村出シ売上申候
- 一 檜板、長六尺幅壹尺壹寸厚並五分 金壹両ニ四拾間替、但シ壹間
 ニ五枚、本五分と申ハ金壹両ニ三拾式間替、長サ幅同

第2章 村々の概況

断、右之板も竹ノ下村出シニ而売上申候

一 先年丹後守様日光江御供被遊候節、歩金と中高百石ニ付金壹分宛出シ申候

一 真綿ハ納不申候

一 麻・紅花無御座候

一 大工・木挽・桶屋無御座候

一 浪人・医師・外科無御座候

一 当村々小田原札之辻迄道法拾壹里、但シ足輕通り

一 橋数三ヶ所、木橋損申候得ハ概申請前々々掛来申候

一 鉄砲拾式挺之内三挺村筒残協筒

男三百八拾七人

一 人数七百五人

内女三百拾六人

出家式人内住持老人隠居老人

内

四拾七人

内 男式拾四人
女式拾三人

十里木新田分

一 馬数 百四拾疋

三疋 十里木新田分

一 牛数 三拾疋

三疋 十里木新田分

一 当村家数百式拾軒之内(マコ)
名主 式軒
組頭 式軒
本百姓 六拾四軒
村足輕 三軒
無田之者 四拾軒

内

拾壹軒之者

無田 十里木新田分

前々御檢地ニ而御座候得共、御証文ハ所持不仕候
一 高式石 御除地 天獄寺

屋敷式反歩 石盛拾ヲ

前々御檢地ニ而御座候得共、御証文ハ所持不仕候
一 高六斗式升四合 御除地 浅間

下畑壹反五畝拾八歩 石盛四ツ

同断
一 高式斗四升 右同断 拾式社権現

下畑六畝歩 同 四ツ

一 辻堂壹軒 長三間 横式間 但かや葺

一宮九社

内

富士山室丹生大明神宮立高サ七尺

金山権現宮立高サ三尺長式尺 長六尺大 (板葺)
横七尺 横五尺

大六天宮立高サ三尺五寸長式尺 横七尺 (葺)

神明宮立高サ三尺式寸長式尺 横三尺 (葺)

子ノ神宮立高サ三尺式寸長式尺 横三尺式寸 (葺)

山ノ神宮立高式尺長式尺 横三尺 (葺)

十里木新田
八幡 ほか高老尺六寸長式尺 横三尺 (葺)

同
水神 ほか高老尺五寸長老尺八寸 横三尺五寸 (葺)

同
山神 ほか高老尺五寸長老尺九寸 横三尺五寸 (葺)

同
愛鷹大明神宮立無御座候 大板葺

右之通水帳之奥書畑反別并諸色書附、少も無偽前々之通書上申候、若脇々相違之段申出候ハ、何様之曲事ニも可被 仰付候、為其名主・組頭・惣百姓代判形仕指上申候、為後日仍如件

貞享三年

寅四月十五日

須山村

名主 太兵衛

組頭 孫右衛門

同 茂右衛門

十里木新田

名主 九郎左衛門

組頭 傳左衛門

惣百姓代 七郎左衛門

右者、此度村差出書上候様被 仰付候付、則貞享三寅年

奉差上候通写書、少も相違無御座候、以上

文化十四丁丑年二月

深山村

名主 一太夫

与頭 佐次郎

同 与左衛門
 同 林右衛門
 百姓代 和七

(裾野市須山 渡邊徳逸氏保管)

貞享三年四月一六日 佐野村・二本松新田指出帳
(六八六〇)
(堅)

(表紙)

貞享三丙寅年
 駿州駿河郡小泉庄御厨領佐野村二本松新田共
 四月十六日

駿州駿河郡佐野村二本松新田共

一 高五百六拾三石貳斗五升貳合

此反別六拾四町四反七畝貳拾五歩

上田拾壹町四反九畝貳拾五歩 石盛十四

分米百六拾石九斗七升七合

中田拾町五反五畝貳拾三歩 石盛十二

分米百貳拾六石六斗九升貳合

下田九町七反貳畝貳拾六歩 石盛十

内五歩 西ノ年新道代

分米九拾七石貳斗八升七合

下々田貳町五畝三歩 石盛八

分米拾六石四斗八合

二本松新田
 下田壹町九反四畝貳拾四歩 石盛十

分米拾九石四斗八升

同所
 下々田五反五畝壹歩 石盛八

分米四石四斗三合

上畑貳町貳反壹畝貳歩 石盛九

内壹反六畝拾九歩 西戌子上田ニ成箱根水懸り

分米拾九石九斗四升六合

中畑壹町八反六畝貳拾貳歩 石盛七

内壺反七畝式拾五歩 酉子ノ年中田ニ成箱根水懸り

分米拾三石七升式合

下畑拾貳町貳畝式拾九歩

石盛五

内三反四畝六歩 酉戌子ノ年下田ニ成箱根水懸り

分米六拾石壺斗四升八合

下々畑六町七反三畝拾七歩

石盛三

内九畝拾六歩 酉戌年下々田ニ成箱根水懸り

分米貳拾石貳斗七合

屋鋪壺町三反壺畝式拾五歩

石盛十

内壺反貳拾歩 名主式人ニ御年貢御免

分米拾三石壺斗八升四合

二本松新田
下畑貳町六反六畝拾貳歩

石盛三

内壺反四畝拾貳歩 酉ノ年下田ニ成箱根水懸り

分米七石九斗八升式合

同所

下々畑壺町貳反壺畝六歩

石盛二

内六畝六歩 酉ノ年下々田ニ成箱根水懸り

分米貳石四斗貳升四合

屋鋪壺反拾貳歩

石盛十

分米壺石四升

高合五百六拾三石貳斗五升式合

田數合三拾六町三反三畝拾貳歩

内五歩

酉年新道代

畑數合貳拾八町壺反四畝拾三歩

内九反八畝式拾四歩 酉戌子ノ年畑成田

外ニ 一野畑貳町九反四畝七歩 巳ノ年御改盛無御座候

一屋鋪壺畝歩

申ノ年御改盛無御座候

一御年貢米俵三斗七升八但 五年已前戌年迄ハ三斗五升ニ上納仕候得共、亥ノ年御用捨、石

ニ三斗七升之勘定ニ御立被下候、廻シ三斗九升五六合

一口米本米壺石ニ付三升宛

一口永本永壺貫文ニ付三拾文宛

五年已前戌年迄ハ三斗五升ニ上納仕候得共、亥年

定ニ御定被下候、廻シ四

大豆拾六俵壺斗式升四合八夕但御用捨之上三斗七升之勘

斗迄

此代、永壹貫貳百九文、但壹貫文ニ付五石替

候

一 糠・藁・繩・蕙之代金壹兩壹分銀六匁八分差上申候

一 持高之内六拾石、諸役名主式人ニ御引被下候、但糠・

一家並薪三拾四駄、但壹駄ニ付銀貳匁五分宛差上申候

藁・繩・蕙代懸り申候

代八拾五匁

一 持高之内壹石五斗、二本松新田組頭壹人ニ御引被下候、

一 山役米本升壹石貳斗七升、御年貢並ニ口米共指申候

(上脱カ)

但糠・藁・繩・蕙代懸り申候

一 御拾分一出様、長木貫板ハ五拾年以前カ

一 持高之内拾石、村足輕壹人ニ諸役御引被下候

新ハ式拾五年以前より
萱ハ拾五年以前より

一 田地困用水普請下筋拾式ケ村組合ニ而仕候、当村普請

一 御買山升(山板)三升五合宛納申候、代物百三拾八文被下候、

人足壹年ニ大分入申候得ハ、昼御扶持被下候儀も御座

但シ壹升ニ付三拾八文

候

一 柿波京升五升宛納申候

木橋壹ケ所、是ハ先年槻被下懸来申候、

一 種元米貳拾三俵、但元米ハ丹後守様御借付被成被召
置候、利足計三割ニ仕差上申候

但引人足御割付ニ而村々カ被下候

一 夫食米壹割半之利足ニ而二・三月時分拝借仕、元利共

一 橋数拾式ケ所内石橋五ケ所村中ニ而仕候
土橋五ケ所同断
木橋壹ケ所同断

壹斗切指上申候

一 箱根御伝馬金貳拾六兩壹步銀五匁、利足壹割半ニ而六

一 村ニ而田地困用水人足三拾人余も入申候

年割ニ拝借仕候濟残り

一 佐野堰地水、先年ハ石脇村・佐野村・稲葉主水様御領

一名主給五厘引、本米百石ニ五斗
本永壹貫文ニ五文

分久根村三ケ村ニ而堰仕水取申候、前々カ堰杭槻被下

一村中江村継御伝馬高三拾石御引被下候、但浮役差上申

候、但シ長三間四尺丸木五六尺廻、但箱根堀貫之水拾

六年以前亥年々木瀬川江落參候ニ付、村々畑成田仕、

堰之儀公文名村・茶畑村・麦塚村・伊豆嶋田村右之村

共ニ七ヶ村ニ而堰仕候、御奉行様願申候得者被仰付被

下候

一下筋拾式ヶ村之内ニ而堰川除其村々ニ而成兼申時分者、

御指図次第人足出申候

一富士山々槻御材木小田原江御取被遊候節ハ、山々花戸

迄御指図次第引人足出申候、御扶持被下候、少々之節

ハ不被下候儀も御座候、

一江戸御屋鋪様江御礼ニ御厨惣代名主式人罷越候、上筋

ぶ老人下筋々老人毎年正月參候、入目錢村々々極月出

申候

一御殿御屋敷御普請之節、繩屋(屋根替)ぶき御指図次第出申候

一水窪・伊豆嶋田両所御拾分一場御普請之節、諸道具人

足御指図次第出申候

一下土狩御蔵御普請之節、諸道具人足御指図次第出申候、

竹木之儀神山村・下和田村山ニ而取出申候

一下土狩御蔵添番人式人、下筋拾式ヶ村ニ而抱置申候、

但シ給米村ニ而京升四斗八升出申候

一御厨米下土狩御蔵江參候節ハ、三嶋・沼津江御払之節、

役ニ而人馬出申候

一箱根御番所柵并結人足先年ハ遣申候、近年ハ不被仰付

候、去丑ノ年御急之御用ニ而結人足高式百石ニ老人出

申候

一稲葉丹後守様下土狩御一宿被遊候節ハ賄人足薪野菜出

申候、御伝馬箱根迄相立申候、御厨江御通被遊候得ハ

神山村迄相立申候

一御国廻御奉行様之御通被為遊候節、佐野村々沼津迄御

伝馬人足出申候

一朝鮮人御通之節ハ、箱根道作り人足出申候

一御鷹匠衆・御飼(飼)指衆之神山村江御越之節者、薪野菜賄

人足出申候

一薪取申山ハ東山江六ヶ村人込ニ而參申候

一村々西ニ沼津領大畑村山ニ而薪草かりしき苗代草取申

第2章 村々の概況

候

一 当村々北ニ大野山之内神山村野・駒門野・印野村野・

須山村野・下和田村野・今里村野、右野ニ而草かりし

き薪取申候

一 二本松新田ハ沼津領富沢村山江參、草かりしき薪取申

候

一 槻之儀堅御法度ニ被 仰付候、但シ家作仕候節ハ奉願

候得者被下候

一 鳥もち六年以前酉ノ年御免

一 内林居久根之竹木式拾貳年以前巳ノ年御免

一 水窪・伊豆嶋田両所御拾分一衆、小田原江御金納ニ御

越之節者、毎月御配府次第人馬相立申候

一 当村御札場地形 但シ長壹丈壹尺七寸
横五尺、高貳尺五寸

一 毎年甲府様御家中衆御通之節ハ駄賃伝馬出申候

一 毎年郡内秋本撰津守様々駿府久野江御茶壺通り申候時

分ハ、人足五拾人・馬六疋出申候、松明御用次第出申

候

一 毎年郡内秋本撰津守様御家中衆御通節ハ、駄賃伝馬出

申候

一 当村々小田原迄箱根道法九里貳拾八町余

一 当村々御殿場御札場迄道法三里三拾壹町四間

一 当村々神山村名主前迄道法壹里拾七町拾四間

一 当村々岩波村名主前迄道法壹里四拾間

一 当村々水窪名主前迄道法貳拾九町拾九間

一 当村々下土狩御藏場迄道法壹里拾壹町五拾八間

一 当村々三嶋御札場迄道法壹里貳拾八町拾三間

一 当村々北稻葉主水様御領分深良村境

一 当村々東稻葉主水様御領分久根村境

一 当村々西沼津領大畑村境

一 当村々東御領分之内公文名村境、但シ道法拾貳町四拾

九間

一 当村々北御領分之内石脇村境、但シ道法九町五拾七間

一 当村々南御領分之内伊豆嶋田村境、但シ道法貳拾六町

九間

一 当村ニ本道医者三好玄意与申者罷有候

一 塗師壹人罷有候

一 紺屋壹人、但シ本瓶壹ツ脇瓶壹ツ御役金式朱宛、二枚橋玄正所

納申候

一 鍛冶三人罷有候、但シ神山村橋かけ申節ハ、釘御用御

役相勤申候

一 大工・木挽・桶屋無御座候

一 酒屋壹軒、石高七石四斗造り申候

名主式軒

本百姓三拾四軒

一 当村家数七拾貳軒

内隠居六軒

無田式拾八軒

医者壹軒

定使壹軒

男式百貳拾九人

一 当村男女数合四百五拾七人

内女式百拾九人
出家八人

組頭壹軒

内 百姓七軒

無田三軒

一 当村之内二本松新田家数拾貳軒

糶屋壹軒

一 当村牛馬之数五拾六疋

馬四拾貳疋
牛拾四疋

一 高壹石壹斗四升

正八幡 壹社

中田式畝歩

石盛十二 除地

下田九畝歩

同 十

一本松新田
一 高式斗六升五合

浅間 壹社

下畑八畝式拾五歩

石盛三ツ 除地

一 高壹石式升七合

本寺京東本願寺
一向宗 法雲寺

屋敷壹反八歩

石盛十 除地

一 高四石三斗式升

本寺相州藤沢清浄光寺
時宗 蓮光寺

屋敷四反三畝六歩

石盛十 除地

六石七斗五升式合

右何れ茂証文ハ無御座候、先年ハ御除地ニテ御座候、

御水帳ニ者相見江申候

一 神明 壹社 ほこら板ふき 高式尺五寸
横式尺式寸
一 山神 壹社 ほこら板ふき 高式尺式寸
横式尺

右之通水帳奥書田畑反別并諸色書付、少シ茂無偽前々之通書上申候、若脇方相違之段申出候ハ、何様之曲事ニ茂可被 仰付候、為其名主・組頭・惣百姓代判形仕差上申候、為後日仍如件

貞享三丙寅年四月十六日

佐野村

名主	惣左衛門印
同	次郎兵衛印
組頭	忠右衛門印
同	惣右衛門印
同	長兵衛印
同	加兵衛印
二本松新田	
組頭	加左衛門印
百姓代	四郎左衛門印

佐野村・二本松新田共ニ村指出帳先年焼失致候由、依願兼而指出置候書面ヲ以相渡之者也

安永乙未年正月十七日 地方御役所 御印

村方差出帳先年焼失仕候ニ付、御上様江差上置候村差出帳御写被下置候様奉願上候処、今般写被仰付、私共立合之上御引合被遊御渡被下置相違無御座、難有奉請取候、以上

安永四未正月

駿州駿東郡御厨佐野村

名主	平左衛門
同	幾左衛門
組頭	長右衛門
同	源右衛門
組頭	九兵衛
二本松新田	
組頭	利左衛門
百姓代	太郎左衛門

(裾野市佐野 岩崎達生氏所蔵)

〆 (二六八六)
貞享三年四月一六日 今里村指出帳(塹)

(表紙)

貞享三年

駿河国駿河郡御厨領今里村指出シ之帳

寅ノ四月十六日

小田原

大久保賀加守御智行所
(マモ) (知)

駿東郡御厨今里村

駿河国駿河郡御厨領

今里村

一 高九拾三石壹斗四升壹合

田畑辻

此反別拾六町七反式拾九步

内

一 上畑三町八反六畝拾四步内式反式拾三步戌年屋敷成

分米式拾七石五升三合 石盛七ツ

一 中畑六町式反三畝拾八步

分米三拾七石四斗壹升六合 石盛六ツ

一 下畑六町式反三畝拾九步

分米式拾四石九斗四升五合 石盛四ツ

一 屋敷三反七畝八步内六畝廿八步名主宅人ニ被下

分米三石七斗式升七合 石盛拾

高合九拾三石壹斗四升壹合

畑数合拾六町七反式拾九步

高外ニ

野畑式町壹反式畝拾九步

高式石九斗式升式合 此反別三反九畝拾四步 寺免

一 山役米六斗

俵本升三斗七升納
京升ニ三斗九升三合

先年ハ本升三斗五升納ニ御座候へ共、四年以前亥ノ

年より本升三斗七升納ニ御直シ被下候

右者御殿場御蔵御売米ニ而買納ニ仕候

一口米本米老石ニ付三升

一口永老貫ニ付三拾文ツ、

一御年貢反取永御勘定ニ而被召上候

一本永老貫文ニ永五文宛、五厘と申名主ニ被下候

一村足輕老人ニ御役高拾石宛御引被下候、拾石ノ内ハ持

高有次第御引被下候

一名主之儀ハ御役高三拾石御引被下候、三拾石ノ内ハ持

高有次第御引被下候

一御買大豆拾六俵三升

大豆五石九斗五升

是ハ人_不申
俵納三斗七升
先年ハ納三斗五升ニ御座候ヘ共、_{廿五}四年
京升ニならし四斗以前亥年々三斗七升ニ御直シ被下候

此石五石九斗五升

代永老貫百九拾文

高百石付六石三斗八升

金老両ニ五石替ニ代金御年貢金ニ而御引被下候
永老貫文ニ五石替

右ハ毎年小田原御蔵ヘ買納ニ仕候

一家並薪拾四駄

金老両ニ式拾四駄かヘニ金子納申候
但小百姓ハ式三軒宛組合是軒分納申候

此金式分銀五匁

一庭三枚八歩_(分)六厘

高百石付五枚、但金老両ニ式百四拾枚かヘ

此銀九分六リン

一繩三拾四房七分四厘

高百石付四拾五房
但金老両ニ三百式拾房かヘ

此銀六匁五分老リン

一糠藁

高百石付銀六匁

此銀四匁六分三厘

一鶉たいまつすゝき五尺廻り式束 毎年納申候

一御用之わらび三尺廻り老束 毎年納申候

一正月御かさり楳葉_(謙カ)三尺廻り六束 毎年納申候

一御用之柿渋式斗式升三合 毎年納申候

代銀何程
一正月殿様ヘ御礼ニ御厨惣名代名主兩人參上致候、使錢

御割次第出し申候

一御殿場御屋敷破損御普請御入用之竹かやすゝき、御配

符次第相勤申候

一 水窪・伊豆嶋田両所御拾分一場破損御普請之節、御用之道具御配符次第相勤申候

一 仙石原矢倉次御番所柵木御配符次第相勤申候

御割次第出し申候

一 井堰川除人足御配符次第相勤申候

一 御厨之内橋挽引人足御配符次第相勤申候

一 富士山々槻御材木御取被遊候節ハ、牛挽ニ被仰付、牛

疋疋ニ日用錢三百文之極メ、但從殿様牛方疋人ニ扶持

方米七合五夕、牛疋疋ニ大豆式升御扶持ニ被下候、右

日用錢三百文之内ニ而御扶持米大豆指次、残ル日用錢

牛方へ払申候

一 殿様御殿場へ御着被為遊候節ハ、賄人足被仰付次第相勤申候儀も御座候

一 御役人様方御通之節ハ、人馬御用次第相立申候、御泊

り之節ハ野草薪出し申候

一 助郷勤高五拾八石内蒲原宿助郷勤申候

是ハ本高之内ニ而宿々加助郷・代助郷等前々々勤来申候、残高之儀者御免ニ相成居申候

一 御鷹匠御餌指衆此筋へ御越之時分ハ、御配符次第賄人

足出シ申候

一 殿様此以前日光へ御成被遊候節、分金と申高百石ニ金

疋分宛出し申候

一 御巡見衆様御通之節、人馬被仰付次第出し申候

一 朝鮮人御通之節ハ、箱根道作人足被仰付次第出し申候

一 寺社方ニ御座候杉檜木、払木ニ仕度節奉願候へハ被下

候

一 御売付米願次第御借シ被遊候、直段之儀ハ其年之相場

ニより被仰付候

一 箱根・小田原町伝馬金四両銀拾匁六年割老割半之利分ニ而御借仕、済

一 御殿場御蔵番給六升九合式夕毎年出シ申候残御借り仕罷在候

一 当村ニ式歳駒御座候年ハ、御殿場ニ而御見分之上被召

上、駒次第段々御金被下売上ケ申候

一 百姓内林ニ而柵炭やかせ御買被遊候、表式箕入ニ而竹

下村迄付届ケ、金壹両ニハ拾表カヘニ代金被下候、くぬきやき仕廻拾三年此方やき不申候

一 百姓内林居くね之内ニ御座候杉・檜木・槻、式拾貳年以前ニ御免被下候、家作抔仕候節ハ御断申上使申候

一 此以前鳥もち納申候得共、六年以前酉ノ年御免被下候
一 此以前薯預納申候得共、五年以前戌ノ年御免被下候

北ハ下和田境、水越・花向尾・馬込・檜木沢・下荒倉・上荒倉・しゆくし小や

一 当村山境 南ハ沼津領葛山境、ませ口・太平・ゆすり葉立・老つばし

東ハ野境沼津領金沢村境、三ツ辻・龍ヶ窪、御宿境おい平

此山之内規立申候、村ニ而寺社方又ハ百姓家作臼馬舟橋木等願書指上ケ申請候而仕申候、此山当村計支配仕脇々入申義ハ不罷成候

脇々入申義ハ不罷成候

一 百姓作之間ニ薪取沼津・三嶋ヘ付出シ売申候、先年ハ御拾分一も不被召上候得共、式拾四五年此方御拾分一

被召上候

一 当村ノ村次下和田村・神山村・石脇村・佐野村
一 当村ノ小田原迄之道法拾里三拾式丁 但足柄通

一 当村橋数式ケ所何れも木橋ニ而御座候
一 鉄砲六挺 内三挺村筒

名主 壹軒
組頭 四軒
内壹軒ハ村足輕ニ而御座候

一 当村家数三拾九軒
村足輕 三軒
本百姓 拾八軒

水吞 六軒
門屋 八九軒
(後筆) 「右之内」六軒

男百四拾六人
女百三拾五人

一 人数合式百八拾六人内
大工壹人 (後筆) 「無御座候」
出家四人 (後筆) 「無御座候」

馬数六拾壹疋

外ニ 浄土宗 安養山浄土院
一 寺壹ヶ所

本寺武州江戸増上寺

一堂壹ヶ所 葉師堂三間四面 但かや葺ニ而御座候

宮五社

内

浅 間壹社

宮

高サ五尺五寸
様三尺貳寸

但板葺ニ而御座候

天 神壹社

宮

高サ貳尺七寸
横壹尺八寸

但板葺ニ而御座候

大 天壹社

宮

高サ三尺
横壹尺八寸

但板葺ニ而御座候

舎後神壹社

宮

高サ壹尺貳寸
横八寸

但板葺ニ而御座候

山ノ神壹社

宮

高サ三尺
横壹尺八寸

但板葺ニ而御座候

右之通水帳之奥書畑屋敷并諸色書付少茂偽なく前之通書
付指上ヶ申候、若脇より相違之段申出候ハ、如何様之曲
事に茂可被仰付候、為其名主・組頭・惣百姓代加判仕指
上ヶ申候、為後日仍而如件

貞享三年

寅ノ四月十六日

今里村

名主

組頭

同

今里村

名主 六右衛門

組頭 太郎左衛門

同 与右衛門

同 九兵衛

同 太兵衛

惣百姓代 文左衛門

(裾野市今里 今里区有文書)

罫

(二六八六)
貞享三年四月一七日

公文名村・稻荷村差出帳(竪)

(表紙)

貞享三年

寅四月十七日

駿州駿東郡御厨 公文名村 稻荷村 御差出帳

宝永五年

子ノ二月 伊奈半左衛門様へ差上ヶ申候

駿州駿東郡御厨公文名村

一 高三百三拾七石貳升貳合

田畑辻

分米拾八石三升四合

下畑五反八畝拾三歩

石盛五

此反別

分米貳石四斗貳升貳合

上田九町五反貳畝拾貳歩

石盛十四

屋敷八反九畝拾五歩

石盛十

分米百三拾三石三斗三升六合

内五畝歩 名主屋敷御年貢御免

中田六町貳反四畝廿七歩

石盛十貳

分米八石九斗五升

分米七拾四石九斗八升八合

高合三百三拾七石貳升貳合

下田三町八反九畝拾歩

石盛十

田數合貳拾貳町貳反壹畝拾歩

分米三拾八石九斗三升三合

分米貳百六拾七石六斗壹升三合

下々田貳町三反壹畝拾四歩

石盛八

畑數合八町四反四畝八歩

分米拾八石五斗壹升七合

右之外 分米六拾九石三斗八升九合

下地分新田延宝五年村々開発
下々田貳反三畝七歩

石盛八

山畑七町八反八畝九歩

石盛壹ッ

分米壹石八斗五升九合

下地分 分米七石八斗八升三合

上畑四町三反八畝廿壹歩

石盛九

下々田壹畝九歩

石盛四ッ

分米三拾九石四斗八升三合

分米五升貳合

中畑貳町五反七畝拾九歩

石盛七

新田三畝九歩

石盛三ッ

内壹反三畝五歩 午未戌年畑成田

分米九升九合

新畑六畝廿歩

石盛弐ッ

下田三町三反九畝廿弐歩

石盛十

分米壹斗三升三合

分米三拾三石九斗七升三合

山畑壹反壹畝廿五歩

石盛壹ッ

上畑壹町壹反弐畝拾四歩

石盛七ッ

分米壹斗壹升八合

分米七石八斗七升三合

高合八石弐斗八升五合

中畑壹町五反廿七歩

石盛五ッ

内七石九斗三升五合
内三斗五升
稲葉丹後守様御代
大久保加賀守様御代

内壹反三畝拾六歩 午申西畑成田

田合四畝拾八歩

分米七石五斗四升五合

分米壹斗五升壹合

下畑四町壹反四畝廿三歩

石盛三ッ

畑數合八町六畝廿四歩

内壹反七畝廿八歩 申西畑成田

分米八石壹斗三升四合

分米拾弐石四斗四升三合

屋敷壹反拾八歩

石盛十

一 高百四拾弐石三斗壹升九合

稲荷村田畑辻

分米壹石六升

此反別

高合百四拾弐石三斗壹升九合

上田弐町壹反壹畝廿五歩

石盛十四

田數合九町六畝九歩

分米弐拾九石六斗五升七合

分米合百拾三石三斗九升八合

中田四町壹反四畝廿弐歩

石盛十二

畑數合六町八畝弐拾弐歩

分米四拾九石七斗六升八合

分米合弐拾八石九斗弐升壹合

二口合四百七拾九石三斗四升壹合

田數合三拾壹町八反七畝拾九步

分米合三百八拾壹石三升壹合

畑數合拾五町三反三畝步

分米合九拾八石三斗壹升

高八石式斗八升五合 新高

一 御年貢米三斗七升入 但し廻し三斗九升五六合

一口米 本米壹石ニ付三升宛 廻同斷

一口永 本永壹貫文ニ付永三拾文宛

一 大豆七俵六升式合 但し三斗七升入、廻し三斗九升五

六合

代永五百三拾文六分 公文名村

一 大豆三俵式斗八升式合 廻し同斷

代永式百七拾八文六分 稻荷村

一 山手役米七斗 但し御年貢御上納仕候 公文名村

一 山手役米八升 右同斷 稻荷村

一 ぬか・わら・縄・蕙代金、壹両壹分銀壹分九厘

一家并薪拾九駄 壹駄ニ付銀式匁五分

代金三分銀式匁五分

一 村ニ而井堰人足百五拾人余、村ニ而人足出し申候

一 村之内堤三ヶ所、毎年砂入さらい人足三百人余遣申候、使

右ハ下郷拾三ヶ村ハ人足被仰付、御奉行様御付被遊普

請被 仰付候、自然大水ニ而破損ハ、御見分之上何百

人ニ而茂御遣被遊候

一 堤槻樋木八本 長式間・幅壹尺四寸・厚サ壹尺

右之木、神山村之山ニ而御役人足ニ而引届ケ申候、拾

年程ニ而取替申候、是茂御奉行様御附被遊候

一 下筋拾三ヶ村之内ニ而堰川除ケ其村ニ而成兼申時分ハ、

御差図次第ニ人足出し申候、人足ニ御夫持米被下候儀

も御座候

一 御役人様方々御通り之節、村繼伝馬人足御用次第出

し申候、御泊り之節ハ薪・やさい御賄人足出し申候

一 柿渋壹斗式升六合 毎年納申候

一 水窪・伊豆嶋田両御拾分一場御普請之節、縄人足御用

次第出申候、竹木ハ神山村・下和田村之山ニ而取出し申候

一 下土狩村御藏御普請諸道具人足出申候、竹木ハ神山村・下和田村山ニ而取出し申候

一 下土狩村御藏添番式人、下筋拾三ヶ村ニ而抱置申候

一 富士山ノ槻御材木小田原江御取被遊、商人并ニ御買被下候

一 御拾分一出シ様 長木板櫃、七拾年以前ノ差上ケ申候
薪ハ四拾年以前ノ差上ケ申候
萱ハ三拾年以前ノ差上ケ申候

一 朝鮮人御通り之節、箱根山道作人足出し申候

一 箱根御番衆様方御夫持米、下土狩村御藏ノ箱根迄付届ケ申候

一 五厘引 本米百石ニ五斗
本永拾貫文ニ五拾文 名主被下候

一 村高之内三拾石、名主老入ニ諸役御引被下候

但し、ぬか・わら・なわ・苳之代懸り申候

一 春夫食願上ケ申候節ハ、壹割半利足ニ三月時分拜借仕、

壹年切元利共指上ケ申候、近年ハ正月拜借仕候ニ付、式割ニ而上納仕候

一 内林居くね竹木御捨免ニ而惣百姓勝手次第伐り取申候
一 箱根御柵木并片竹被下、繕人足出し申候

北之方久根村、稲葉紀伊守様御領分、但作境ニ御座候

一 当村ノ境 西之方佐野村作境ニ而御座候、名主所迄道法拾壹町

南之方茶畑村作境ニ而御座候、名主所迄拾六町四拾間

小田原江箱根通り九里廿七町

御殿場御札場迄四里

一 当村ノ道法 下土狩村御藏場迄壹里廿三町廿式間

三嶋御札場迄壹里廿七町

沼津御札場迄式里三拾町

一 当村馬之茅(草)・薪井かや茹場、東山之内北ハ大谷、此筋

江道法式拾四五町、又ハ壹里半余も御座候

一 同茅かや・薪茹場もじり杉しんなし、此筋江道法壹里

余御座候

一 当村茅かや・薪茹場こさの尾筋、道法壹里半余御座

候

拾九軒小百姓

一同茅かや・薪茹場、南ハ南沢一場平牛坂筋道法壹里、

又ハ壹里半余も御座候

男百三拾壹人

一大野原ニ而馬之茅茹場道法式里余御座候

女百五拾八人

一当村伯棗・木挽・紺屋・桶屋・いしや・浪人無御座候

山伏四人
出家三人

四ヶ所石橋、村ニ而かけ申候

一橋九ヶ所

内壹ヶ所土橋、村ニ而かけ申候

四ヶ所木橋、雑木ニ而懸申候

一槻橋三ヶ所 長四間半・幅壹尺三寸・厚壹尺、但し壹

ヶ所ニ式本宛懸申候

中田三反五畝拾歩 石盛拾貳

四石式斗三升九合六夕

右之木神山山村之山ニ而被下、御役人足ニ而御奉行様御

付被遊、御引届ヶ被下候

一禅宗寺壹ヶ所

中畑式反四畝八歩

御除地光明寺

一鉄炮壹挺

獵師筒 但し玉目三匁

屋敷壹反六畝歩

石守十

高ノ七石五斗三升八合三夕

一脇筒式挺

壹挺ハ威シ筒 玉目式匁三分
壹挺ハ同 玉目三匁五分

宮数七社

一鹿嶋大明神 向五尺壹軒社

大板ふき

壹軒名主

三拾三軒無田

一当村家数五拾七軒

内式軒組頭

式軒ハ借家

下畑壹反三畝歩

御除地

高六斗五升

一 八幡宮

向式尺杓軒社

大板ふき

下田六畝拾貳歩 御除地

高六斗四升

一 伊勢神明

向杓尺

板ほこら

下畑七畝廿八歩 御差置

高三斗九升六合七夕

一天神

向四尺

大板葺

下畑貳反五畝貳歩御差置

高杓石貳斗五升三合四夕

一 いなり新田 稻荷大明神

向杓尺八寸

板ほこら

下畑六反四畝歩 御差置

高杓石九斗貳升

一 山之神二ヶ所

向杓尺貳寸

板ほこら

一堂式軒

内 杓軒

積迦堂

三間ニ式間、

但しかやふき

千福村差出帳

右之通り水帳奥書田畑反別并諸色書付少も無偽前々之通り書上ヶ申候、若脇々相違之段申出候ハ、何様之曲事

ニも可被仰付候、為其名主・組頭・惣百姓加判仕差上ヶ

申候、為後日仍而如件

貞享三年

寅四月十七日

惣百姓代 喜兵衛

同 与左衛門

(榎野市公文名 市川逸朗氏所蔵)

元禄一一年七月 千福村差出帳(堅)

(表紙)

元禄拾老年
寅ノ七月 青山[㊦]

駿河国駿東郡千福村

一米百五拾五石七斗九升七合 去丑之年田畑相納辻

此表^(儀)四百四拾五表四升七合 但三斗五升入

此わけ

百三石八斗六升五合 三分二米納

此表式百九拾六表式斗六升五合 但三斗五升入

五拾壹石九斗三升式合 三分一金納

此表^{此表}式石九斗六升七合

合五拾四石八斗九升九合 但斗立九斗替御直段

此表百四十八表式斗九升九合 但三斗七升入

此代金六拾兩三分永式百四拾八文八分八厘

一米壹石五升 山手役

此延米六升

合壹石壹斗壹升 斗立

此代金壹兩永式百三拾三文三分 但斗立九斗替

一米三升 是ハ右山手役御口米 但米納

一米拾式表式斗五升壹合 去丑之年御口米 但米納

御割付面之御米高百五拾五石七斗九升七合之御口米、

但本石三拾五表ニテ壹表宛之勘定を以右之御口米相納

申候、加米之儀ハ右本石壹表江式升宛之加米ニテ三斗七升入ニ而御納所仕候、則御払米ニテ入札ニ被仰付、

其上払之儀御藏方道法御定三里ツ、払仕候、此外差

米無御座候

一土之儀、田方ハ黒ぼくニテされ土ニ御座候、畑土之義

ハ炭土・黒ぼくニ御座候事

一見取場之儀ハ、御割付之面ニ新畑と御座候方外ハ少シ

も無御座候、勿論田方ニも無御座候事

一御割付御免状之外ニ、大豆・餅惣而何ニ而茂一切相納

不申候事

一魚之獵、先規方無御座候事

一蘆野、大野山相郷八合之所ニテ苺取申候、但道法三里

御座候

一馬草芝野、古来方村続之内野并入合野^(念)ニ而苺敷馬草場

道法壹里・壹里半所ニ而苺申候、勿論大野へも參候

一百姓自林之儀、前々方地続并野林壹人前ニ五ヶ所・三

ヶ所乃至壹ヶ所・二ヶ所宛所持來候、則別帳反歩ニ記

指上ケ申候

一 桑持之者、拾四五軒之百姓少シ宛持来候、其外ニ少も無御座候、并漆無御座候

一 蟲之儀、右桑少シ宛持候者共蟲取仕候、尤他へ少シも出し不申候

一 紙漉前々々無御座候、尤楮持候者拾二三軒之百姓少シ宛所持仕候

一 茶碗給茶(マ)ほと持候百姓拾軒計御座候、其外ニハ無御座候、并たはこ分ニ応シ沓セ・式せ宛作り申候事

一 薪取場愛鷹山ニ而取申候、但道法二里・二里半御座候

一 炭焼先規々無御座候

一 塩焼古来々無御座候

一 用水之堰場、当村之内ニ御座候得而、木瀬川々水取申候、則沓村せきニ而定水ハ不及申、箱根堀抜之水も取申候

一 堤無御座候

一 当村畑成田、箱根水掛リニて用水取候儀、伊丹左京様

御知行所御宿村之内かろうとせき々水取申候、但村々

寄合せきニて、松平大八郎様御知行所上ケ田村・金沢村・葛山村・右御宿村并当村共ニ此五ヶ村ニ而堰仕候

へ共、段々上四ヶ村水上引取、当村はりうの末へニ御座候、年々日損仕候

一 川除前々々御入用ニテ以御普請場谷津川筋も数ヶ所籠出し・石出シ・石堤之所御座候

一 溜井無御座候

一 坎樋無御座候

一 板橋無御座候

一 当村江他村々入作之者、葛山村・須走村・大畑村・上

土狩村、此四ヶ村々入作御座候

一 当村々他村へ出作之者無御座候

一 海辺ニ而無御座候

一 狹舟并渡舟無御座候

一 川舟并川魚運上無御座候

一 馬医当村ニハ無御座候

一 馬喰仕候者 壹人御座候

一 牢人無御座候

一 本道外科医者無御座候

一 家大工 壹人御座候

一 舟大工無御座候

一 鍛冶 壹人御座候

一 木挽無御座候

一 桶屋 三人御座候

一 杣取無御座候

一 左官無御座候

一 御朱印地 高拾三石式斗余、但山林共、当村禪宗普明寺

并当村中氏神十二所権現へ下畑式反七步御除地御座候、

累年八月富士峰山伏加行相勤ニ参候に付、右御除地御

座候

一 郷御藏之儀、当村ニ御藏屋敷地下畑五畝廿六步、則御

年貢ハ御免、御役ハ相勤申候、但御藏組之村々、大畑

村・葛山村・金沢村・上ヶ田村・御宿村・当村共ニ六

ヶ村にて四軒御座候、此度右五ヶ村江引取可申候

一 氏神之守名主 太兵衛仕候、尤神主・社人無御座候

一 殺生之儀、獵師鉄炮之外殺生不仕候、勿論連上無御座

候

一 酒屋前々々無御座候

一 米収納仕、江戸御城米ニ冬春廻シニ仕、沼津湊迄道法

三里半御藏ハ付出、湊ニ而舛目相改俵数舟主納才宰(ツツ)へ

相渡、則請手形取置申候、但運賃之儀ハ、御公儀様ハ

被下候上乘壹船ニ壹人宛のせ申候、賃金之儀ハ村々ハ

出申候、御米納才料ハ村々相談之上相究、其上御指図

受、冬式人・春式人宛参候、則入用路金指金造用割合米高

ニかけ、村々ハ右指金出申候

一 稲作、早稲少々作り申候、相残候分ハ弥六と申中稲作

り申候

一 畑作之儀ハ、三分二ハ大麦、三分一ハ小麦、尤夏作ハ

粟・稗・芋・大豆・大角豆・小豆・茄子、尤岡穗ハ

少々、作申候、夏作引取候へハ、菜・大根并蕎麦

少々作り申候

一 田畑入上米之儀ハ、上中下之位ニ不構、地生之善悪を

以^レ壹反ニ付四表半・四表・三表半・三表迄之小作預ケ

口ニ御座候、勿論畑儀ハ上畑壹反ニ付金壹分式朱・中

畑壹反ニ付壹分壹朱・下畑壹反ニ付壹分・下々畑壹反

ニ付^レ鐙式百文ツ、小作ニ預ケ申候、畑方之義ハ米ニハ

少も預ケ引不仕候

一 田畑累年作毛仕付之儀、田方之儀ハ毎年五月之節ニ入

候を相待仕付納メ、中ニ入候を限り仕付仕廻申候、勿

論苗代之儀ハ三月土用ニ入候得而^(マ)苗代仕候、日数五十

日ニ而掛申候、并畑之儀ハ三月之中時分^〆四月中時分

迄ニ段々夏作仕付申候

一 田方之こやし、壹反ニ付馬屋こへ十五駄・苜敷廿駄、

都合壹反ニ三拾五駄積リニ入申候

一 畑方こやし之儀ハ、春諸作仕付之時分ニ壹反ニ炭こへ

十四五表ツ、入申候、其上草をへ之時分上こへ兩度

ツ、仕候得而^(マ)、累年七・八月兩月之内夏作引取耕候時

分馬こへ壹反ニ拾五駄又ハ廿表宛入申候

一 山川献上物何ニ而茂一切無御座候

一 当村御伝馬相勤不申候事

一 助馬之儀右同断相勤不申候

一 当村ニ御鷹場前々^〆無御座候

一 当村ニ市場無御座候

一 当村ニ箱根水掛リニて畑成田高拾八石余之所年々日損

仕候、併当年ハ永雨降り申候上、近年に無之水沢山ニ

かけ引仕候上本田並作ニ御座候、但水損之儀、大水之

時分谷津川并木セ川筋ニ田畑共ニ水損仕場所御座候、

并谷津入細野沢と申候沢懸り式町余之所、年ニ寄水損

仕候

一 当村東西江何十何間 南北へ何間 但当村分付入

所居村之内五百六拾間 南北へ五百廿間

一 男女稼之内家職ニハ田畑耕作、惣而遺て所作仕候

一名主給ニハ、式人ニ而役高四拾四石引諸役相除申候、

但御年貢御城米入用等懸り申候、并組頭給米四表宛、

則村々出シ申候事

一 御年貢之外ニ高役ニ仕候義

米合九表式斗式升 一 組頭給米四表

一 升取給式斗八升

一定遣給米式表半(使)

一 御蔵番給米壹表一升五合

一 御六尺給米壹表壹斗一升

右米之外、江戸御蔵前入用高百石ニ金壹分宛、其外川

除御普請人足并年中方々少竹人馬帳紙墨筆等諸事入目

高わりニ仕候、尤品ニより家別割ニ仕候義も御座候、

箱根水掛り入用、是ハ反別かけわり合仕候

一 御用に付名主・組頭御役所へ相勤、造用其外御用ニ而

何方へ参候共、諸事入目村中々出シ申候

一 御検見仕様、村中惣百姓入作之者迄立合、御検見引候

田計見立、坪苜仕合付記帳面指上ケ申候

一 御関所無御座候

一 御年貢之外ニ馬草藁糠等、先規々相納不申候、勿論代

錢と申議も無御座候

一 絹袖一切無御座候、真綿少々蟲仕候者手前遣ニ仕、少

も他へ出シ不申候

一 御蔵入用之儀、御蔵普請其外修覆等之入目、村中々出

申候

一 御金納入用之儀、江戸へ被遣候入目并右御金包代、去

丑年鏝五百四拾七文相納申候

一 御六尺給米割(符)府書出候通りニ御座候

一 御蔵番只今迄ハ六ヶ村ニ而定番壹人ニ相定、給米高百

石ニ付米壹斗宛之積りを以、則番人当村小百姓作右衛

門と申者を相勤、御蔵ニ御米御座候内ハ村々々夜番割

合を以壹夜壹人宛加番出シ申候事

一 穢多・猿まわし・ゑひすおろし無御座候

一 割元衆入目ちきりかけ給金何ニ而茂無御座候事

一 米百表ニ付去丑御城米指金わり金三分式朱宛出申候事

一 田畑売申候儀、御定之通り拾ヶ年を限り、又ハ質物ニ

入候義五年三年と相定金子指引仕候、尤二年三年之定

がり引仕候質地金元へ相渡候も御座候、又ハ五年三年之納米ニ而金子ハ借り候へ而も、質地ハ金元へ相渡し不申、借主ヨ年々利送り仕候義も御座候

右者今度御所替ニ付、千福村品々御改被遊候ニ付、委細書上申所毛頭相違無御座候、此外小物成・小役等ハ不及申上、所之様子外ニ申上儀無御座候、若隱置後日ニあらわる、ニおひてハ、私共何様之曲事ニも可被仰付候、其節一言之儀申上間敷候、為後日名主・組頭之者証文、仍而如件

元禄十一年

寅七月

(裾野市千福 西島義禮氏所蔵)

庄屋
組頭

吾 (七四五)
延享二年六月 岩波村明細帳(竪)

(表紙)

延享式乙丑年
駿州駿東郡鮎沢庄御厨岩波村
六月

一家数合式拾四軒

壹軒 名主
内 貳軒 組頭
拾三軒 百姓
八軒 借屋

一 当村境之儀者

北ハ 神山村迄、三町四拾間余

東ハ 右同村境迄、壹町五拾六間

南ハ 稻葉主水様御知行所深良村境迄、三町五拾間余

西ハ大久保直之丞様御知行所御宿村境迄、式町

一 当村之村組与申候者、御厨下郷之内御領分村方左之通

神山村・岩波村・石脇村・佐野村・公文名村・稲荷

村・茶畑村・平松新田・麦塚村・伊豆嶋田・二ツ屋

新田・水窪村・上土狩村・下土狩村・竹原村

一 鉄炮七挺

村筒老挺、神山村太郎左衛門組下ニ御座候

内 獵師筒式挺御座候

威筒三挺御座候

一 地水懸り高

一 湖水懸り高

一 御大名様・御旗本衆様御通り被遊候節ハ、神山村江人

馬差出シ、村役人も罷出村継相勤申候儀も御座候、御

定之賃錢被下置候

一 御役人様方在々御通り之節ハ、地方御役所様方御配府

之人馬被 仰付次第次送り申候、尤御泊り之節ハ、御

賄人足薪野菜出シ申候

一 山手買売之木竹薪其外諸品、御拾分水窪村・伊豆嶋田

村御拾分老所御定法之御拾分老差出申候

一 水窪村・伊豆嶋田村御拾分老所御普請竹木諸色御入用

之品并人足、御触次第差出申候、尤大工ハ御役ニ出申

候、御扶持米者老人ニ付一日老升五合宛被下置候、釘

鉄物ハ御上々被下置候

一 水窪村御拾分一場家老軒長五間

但シ老間半ニ式間之まげあり
三方ニひさしあり

一 伊豆嶋田村御拾分一場家老軒長五間

但シ九尺式間之まげあり
三方ニひさしあり

右御普請之節ハ、御厨御領分不残割合人足諸色出申候、

大工之儀者一日ニ老升五合宛御扶持米被下置、釘鉄物

ハ小田原方被下置候

一 下土狩村御蔵并御役所共ニ御普請之儀者、郷蔵ニ御座

候而竹木諸品人足御米納候村々々差出申候、尤御蔵四

方之垣年々結替申候、番人之儀も式人村方ニ而抱置申

候、尤御蔵へ御詰之御組衆へ者村方々内歩野菜差出申

候

一 下土狩村御蔵棟數五軒

式軒ハ長六間 横三間 式軒ハ長五間ニ 横三間ニ

一 下土狩村御蔵場東西四拾五間 南北式拾四間 東向惣かこい竹 矢來積之所も御座候

右屋敷三反六畝歩、御割付之面ニ而御引被下候、御先

代々下郷村々御米相納申候

一 御陣屋老軒長七間ニ横式間 式間ニ九尺之まげ御座候

右御陣屋二間ニ仕切り、御蔵衆様・御組中衆火所式ヶ

所御座候、尤御組中御詰之内内歩式人、薪・野菜・醬

油・油・茶等村方々持參仕、代ル々相勤申候

一 御陣屋畳拾式畳、御台所様々御敷被遊候

一 高挑灯三張御紋附、是ハ楠田清次郎様御勤被遊候節々

御座候

一 三ツ御道具、是者鶴岡太左衛門様御勤被遊候節々御座

候

一 御帳箱壹ツ、是村(者欠カ)瀬喜左衛門様御勤被遊候節々御座候

右之外、なべ・葉(缶)くわん・桶等御陣屋附ニ而御座候

一 御蔵番屋式軒

長五間・横式間 御門之兩脇ニ御座候

右番人式人、前々々下郷之内々相勤申候、給米七表(俵)

ツ、拾四表、村方割府(符)ニ而差出申候、近年相談之上五

年替りニ相定勤申候、只今番人下土狩村利兵衛・上土

狩村弥四郎相勤申候

右御蔵場御普請諸色入用共ニ御戻り地以来、下郷拾五

ヶ村・上郷之内八ヶ村・中山筋八ヶ村、田高掛ヶニ割

合仕候

一名主持高之内三拾石御役御免ニ御座候、但シ浮役・家

並御引不被成候

一 御年貢納高米金之内、年々五厘宛名主給御引被下置候

一 村筒之者持高拾石御引被下置候、拾石々内之持高ニ御

座候得者不殘御引被下置候

一 当村山之儀者神山村山江入会ニ御座候

一 大野原入会ニ而不依何ニ取来り申候

一 年中村継人足相勤申候ニ付、村高之内三拾石之御役高

御引被下候

一 当村井堰川除御普請人足籠竹、御差紙下郷拾五ヶ村江被仰付、小奉行中御着被成、井堰川除年々出来仕候

一 三嶋・沼津を甲州江之往還道筋村内ニ御座候、橋四ヶ所

壹ヶ所ハ長六尺

但シ壹ヶ所ハ長四尺

式ヶ所ハ長六尺

右四ヶ所、前々を石橋御座候

一 村継ニ而御用之御荷物大分御通り之節、御領分村方へ御代官様を被仰付、他村を人足被下置継送り候儀も御座候

一 当村之内往還道普請仕候節、御代官様江申上、他村を人足被下置候事も御座候由申伝候

右者稲葉丹後守様御代之事ニ御座候

一 作場橋・山橋七ヶ所

壹ヶ所ハ大野原山江參候橋ニ御座候

内 壹ヶ所ハ東山道橋ニ御座候

式ヶ所ハ広地作場橋ニ御座候

一 当村田地用水不足之節ハ、大坂村・駒門村・中清水村堰切落シ、当村へ水引来り申候

一 下郷御領分村方川除其村ニ而成兼申候節ハ、御差図次第人足差出シ申候

一 箱根御関所御柵木御結替之節者、杉檜木丸太目通り壹尺式寸廻り・長八尺木数并ニ片竹村組割合ヲ以年々差出申候ニ付、箱根御関所迄持届ケ申候、御柵控木打候釘者御上を被下置候、尤御柵結人足村組割合ヲ以差出シ申候、御柵結之内世話役村方年番ニ而名主式人宛罷出申候

一 箱根御関所御用米、下土狩村御蔵を箱根御蔵迄附届ケ申候、尤下土狩村御蔵御役人様方を御触次第、村組申合組頭壹人才領仕候、下土狩村御詰御奉行中御差添御越候而箱根御関所御蔵預り候者へ相渡シ、受取手形下土狩村御蔵御役人中様へ差出シ申候

一 下土狩村御蔵米、三嶋・沼津へ御払之節者人馬御用次第差出シ申候

一 田植夫食米御願申上候節、御拜借被 仰付利足之儀ハ、一年始之御祝儀、此方様御代ニ罷成り江戸御屋敷へ御厨惣代名主式人毎年正月御礼ニ罷出候与申伝候、江戸御屋敷之儀御免被遊候、小田原へ為惣代と名主彦人毎年罷出御祝儀相勤申候

一 御公儀様御鷹師衆・御餌差衆御泊り之節ハ、賄人足野菜神山山村へ差出申候

一 朝鮮人・琉球人御通り之節ハ、箱根道作り人足地方御役所様御触次第差出シ申候、富士川舟橋之儀者割合掛り不申候

一 百姓之内若シ長病ニ而御田地仕付等ニ難儀仕候得ハ、親類之者并村中ニ而田畑仕付仕候

一 村方役人共々百姓共江申付之儀相用ひ不申、不届キ之儀御座候得ハ、名主・組頭吟味仕、五七日も押込申候而事ニより五人組へ預ケ置キ候儀も御座候、内分ニ而相濟事ニ御座候得者御上へ者不申上候

一 近村ニ出火御座候節者相互ニ村役人人足召連火消シニ罷越シ申候

一 右者稲葉丹後守様御代々此方様御代ニ罷成り候而も右之通ニ御座候

一 一年始之御祝儀、此方様御代ニ罷成り江戸御屋敷へ御厨惣代名主式人毎年正月御礼ニ罷出候与申伝候、江戸御屋敷之儀御免被遊候、小田原へ為惣代と名主彦人毎年罷出御祝儀相勤申候

一 御參府御帰城其外御祝儀之節者、村組申合名主彦人小田原江罷出申候

一 稲葉丹後守様御代、箱根御関所御扶持米之御蔵御普請被 仰付候儀も御座候得共、右御代々御免被遊候

一 稲葉丹後守様御代、名主家作仕候節御用米被下置候得共、此方様御代ニ罷成り不被下置候

一 稲葉丹後守様御代、此方様御代ニ罷成り候而も、御殿場村ニ御茶屋有之候節ハ、家萱并繩御用次第差出シ申候

一 稲葉丹後守様御代、富士山御材木御取り被遊候節山竹之下川ばた迄出シ申候得者、御扶持米被下置候

一 此方様御代ニ罷成り、宝永年中富士山御材木為御取被

遊候

一元米壹石ニ付四米三升(斗セ)ツ、出シ申候

一村内ニ出火御座候節者、御役人様へ早速御注進申上、

一元永壹貫文ニ付、口永三拾文ツ、出シ申候

火元之者御吟味之上押込置様ニ被

一米壹斗七升 山役米

寺ニ押込申候、御免被遊候節ハ、過怠ニ苗木植候様ニ

但シ、口米御年貢並ニ出シ上納仕候

被 仰付

一 大豆壹石式斗六升 每年上納仕候

一御公儀様御免勸化之儀、前以御役所様ノ御触御座候得

代永式百五拾式文式分、但シ永壹貫ニ付五石買

ハ、勸化相応ニ出シ申候、尤勸化人被参及暮ニ候得者、

一家並薪九駄 右同断

一宿被致事も御座候、殊ニ寄勸物御役所様江御取り立

代銀廿式匁五分

被遊候儀も御座候

一糠・藁・繩・苳 右同断

一御公儀様川役金、其村々御割府(ノ)ヲ以差出シ申候

代銀廿壹匁八分四厘

一九拾歳ニ罷成り候者有之、其段御注進申上候得者、御

一柿洪式升五合

扶持米被下置候

代銀壹匁式分

一御年貢米俵入、稲葉丹後守様御代三斗五升ニ而相納申

一正月飾御用之ゆすりは、元禄式年巳ノ年御免被下置候

候所ニ、右御代天和三年亥年ノ三斗七升之御勘定ニ而

右者稲葉丹後守様御代ニ上納仕候得共、此方様御代

相納申候、此方様御代ニ罷成り候而も三斗七升之御勘

ニ罷成り御免被下置候

定ニ而相納申候、尤御蔵之儀者三斗九升五六合迄之廻

一悪年ニ而飢人御座候節者、飢人御扶持米被下置相助候

シニ上納仕候

儀も御座候

- 一 牛馬之煩はやり候節者、殿様を御葉被下置候
- 一 享保拾八年丑ノ年御百姓相煩候節、松原大明神様ニ而御祈禱之御札村々へ被下置候
- 一 三拾九年以前子ノ年を申ノ年迄、伊奈半左衛門様御支配ニ罷成り候内、大豆浮役家並新代共ニ御免被遊被下置候
- 一 稻葉丹後守様御代、御し、かり御座候由申伝候得共、(マ)
- 一 出火有之候節、御拝借御願申上候由申伝候得共、近年左様成ル儀無御座候
- 一 一村方ニ而無扨旅人宿頼候節者、出所吟味仕番人相添一夜ハ相留候儀も御座候
- 一 疫病神・虫送り并人不見候節、かね(太)大鼓打候而尋候事も御座候
- 一 はやり病有之候節者、相願候而御葉被下御医師扱被仰付候事も有之候由申伝候
- 一 一村方ニ而鷲又熊等打留メ候而差上候儀、只今迄無御座候
- 一 当村を箱根通り小田原迄拾里拾六町余
- 一 箱根御関所御柵木結替之節、栃・杉・檜木之丸太目通り老尺式寸廻り・長八尺、右ハ御修覆被 仰付次第御柵参仕、下郷組合拾五ヶ村ニ而御柵木人足高割ニ仕差出シ申候、片竹之儀者箱根山中上ニ而伐り持参仕候、尤名主式人宛年番ニ而相勤メ御柵結替仕候、古柵之儀者其節之名主番方へ被下勝手次第相払申候
- 一 享保年中駿府御代官小林又左衛門様へ奉願上候所ニ、水懸り村方御支配相替り、豆州三嶋宿御代官山田治右衛門様御代享保十一年午ノ年、三嶋宿御役所ニ而三筋ニ而水配役三人、老人ニ付給分三人扶持ツ、九人扶持下役三人、老人ニ付給分式両ツ、六両、都合六人被仰付候、尤只今勤候水配役人、上郷ニ而深良村名主源藏・下役同村百姓彦十郎、中郷ニ而茶畑村名主文治郎、下郷ニ而新宿村名主甚五兵衛、下役相究り不申候
- 一 箱根湖水堀用水筋、元禄元辰暮を沼津宿御代官小長谷勘左衛門様御支配ニ罷成り、水配堰役人御料ニ而御宿村名主平次郎・下役水門番式人、都合六人被仰付相

勤申候、右水配耆人ニ付給分四人扶持ツ、都合八人扶持、下役耆人給分式兩ツ、都合八両、水懸り村方高割、御領分村方拾五ヶ村・御他領十四ヶ村都合廿九ヶ村ニ而高割ニ被 仰付年来相勤候、段々御代官様御替り被遊候

一 右水配之内、平次郎病死仕悴半右衛門代罷成り、宝永四亥ノ年水懸り下郷・中郷・上郷水論仕、同五子ノ年御評定様ニ而御裁許被下置、右水配人相止メ、三筋ニ而水配六人仕立用水引候様ニ被仰付、其節駿府御代官能勢権兵衛様御支配ニ罷成り、子ノ年三筋ニ而水配六人、耆人給分三人扶持ツ、拾八人扶持、下役三人、耆人ニ付金式兩ツ、六両、上役・下役給分水懸り村方高割ニ而差出シ申候

(裾野市石脇 大庭和彦氏所蔵)

三 (二七四五)
延享二年七月 水窪村書上銘細帳(竪)

(表紙)

延享二年

駿州駿東御厨小泉庄水窪村書上銘細帳

道法

丑七月

小田原迄九里拾貳町八間

覚

耆軒名主

式軒組頭

一家数合三拾軒 内五軒本百姓

拾六軒無田

六軒地借

外ニ寺々ケ所浄土真宗

一 当村 東西三町五拾間
南北拾壹町

東ハ中川向、同郡伊豆嶋田村

西ハ木瀬川向、同郡大岡庄一色村

但

南ハ同郡上土狩村境広地之内ニ御座候

北ハ村頭大堰ヲ堰原境川ニ御座候

一 当村村組と申候者、御厨下郷御領分左之通り

神山村・岩波村・石脇村・佐野村・公文名村・稲荷

村・茶畑村・平松新田・麦塚村・伊豆嶋田村・二ツ屋新

田・水窪村・上土狩村・下土狩村・竹原村、都合拾

五ヶ村ニ御座候

一 地水掛り田高百七拾石九斗八升三合

此反別 上田五町三反六畝廿壹步

中田五町四反四畝八步

下田三町五畝拾步

一 箱根湖水掛り高壹石壹斗式升八合 延宝八申年畑成田

右地水之儀、村頭当所上大堰ヲ用水堰原境川通り御厨

往来橋下三俣堰西川ヲ水取、御田地用水并惣百姓飲水

等ニ仕候、水下御他領納米里村江茂箱根湖水共ニ引通

シ申候、右大堰之儀、留堰ニ而外ヲ手附不申場所ニ御

座候、古来者地水村方ニ而世話仕候、寛文十一亥年箱

根湖水堀抜出来仕用水引通シ申候、殊ニ大高ニ候故、

下土狩ニ而世話仕候、水懸り水窪・伊豆嶋田・上土

狩・下土狩・竹原・御他領納米里村・中土狩村・新宿

村・伏見村、都合九ヶ村ニ而堰普請人足諸色高割を以

差出申候

一 当村御田地、先御地頭様御代、此方様御代并伊奈半左

衛門様御支配之節共、少々長町水末五畝・三畝之儀者

各別目立候早損仕義無御座候、濁水之節ハ村中申合欲

水懸不申様ニ仕故、水下ヲ違論不仕候、宝永四亥年箱

根湖水懸り上郷・中郷・下郷水論仕候得共、水窪村者

相除キ申候、御檢使様ニ茂御尋茂無御座候、御評定様

御裁許ニ茂相除申候

一 箱根湖水掛高壹石壹斗式升八合 延宝八申年畑成田

此反別壹反四畝廿步

右湖水懸り水窪村少分之儀ニ而、井掛り村方ニ順シ寄

合相談ニ茂稀ニ罷出、具之儀者不奉存候、湖水掛り諸
入用水配給分共ニ水掛り式拾九ヶ村一同高割ニ差出申
候

一 当村の所々道法、先御地頭様御代、延宝年中御改之由
ニ御座候
一 当村の道法 伊豆嶋田迄 八町四拾五間

一 箱根湖水堀抜元ノ之者、延宝元丑年当村野田与申所ニ
而穴堰堀抜仕候、横式間程・長拾式間割堀仕、高サ五
尺五寸・横五尺・長百四拾八間堀抜申候、内割堀拾式
間・穴八拾六間、水窪村御田地下タ堀抜、残り六拾式
間御他領同郡納米里村分堀抜、段々新川堀下シ、右穴
口ノ中川通り箱根湖水ヲ引、水掛り納米里村・上土狩
村・中土狩村・下土狩村、四ヶ村用水引申候
一 当村堰数大小九ヶ所 但シ村之内ニ御座候

訳

相州境竹之下村迄 五里廿九町五拾壹間
御殿場御札場迄 四里廿五町三拾三間

向田堰 むくの木堰 半野田堰 竹ノ下堰

郡内境須走村迄

寺堰 村中堰 老町田堰 井沼堰 中川口堰

一 当村之儀、継場ニ而御用御荷物并商人荷物継送り申候、

右当村堰并下郷組合井堰川除人足割合之義、下郷拾五
ヶ村一同ニ割合差引相勤申候、下土狩之義者竹原村ノ
公文名村迄助郷一統ニ仕候

君沢郡三嶋宿・駿州駿東郡沼津宿ノ甲州・相州江往来
ニ御座候、御武家様方御通り之節ハ、賃錢人馬・御朱
印人馬共ニ御触次第相勤申候、水窪村之義、小村ニ而

村人馬不足之節ハ御注進申上、脇村加勢人馬可被下儀ニ候、先年郡内谷村御城主秋元伊賀守様豆州熱海村ノ賃馬六拾疋・賃人足三拾人ニ而御通り、三嶋宿ノ佐野村江継、佐野村ノ神山村江継、神山村ノ茱萸沢村江継、茱萸沢村ノ須走村江継、須走村ノ郡内山中村江継、其節脇村江加勢人馬被 仰付候由承り及候

一 当村ノ佐野村江継人馬賃錢

本馬壹疋賃錢

但 輕尾^(尻)

人足

一 沼津宿江継人馬賃錢

本馬

但 輕尻

人足

一 右継人馬、商人荷物之儀、春冬又者田植仕付耕作秋収納時分者、少々宛賃錢増減仕候

一 此方様御代、殿様方御厨筋御通被遊候節、御用人馬御

触之通り、村組一同ニ差出申候、勿論御泊り米・味噌・薪・野菜・諸色共ニ御触次第相調差出申候、先御地頭様御代之儀者相知レ不申候

一 御役人様方在々御通り之節、地方御役所様ノ御配府之人馬被 仰付次第継送り申候、尤御泊り之節ハ御賄人足・薪・野菜出申候

一 当村・伊豆嶋田御拾分一所御普請之節、人足諸色御触次第、御領分上郷・下郷村々御入用之品々差出申候、人足之儀者、遠方之村方間ニ合不申、近村ニ而相勤申候、諸色指引勘定ニ入替申候、大工入用之義ハ御厨御領分之大工御仕^(マツ)イ被遊、壹人ニ御扶持米壹升宛并御入用之釘共被下置候

一 当村之内山内林無御座、御他領同郡一色村・富沢村西山愛鷹山筋江入会、馬草・苜蓿・茅・薪・諸色取申候、勿論大野原入会ニ馬草・苜蓿・茅・薄・諸色取申候得共、遠方ニ而多人不申候、依之御拾分一錢御免ニ而出不申候

一 郷藏之儀、先御代々下土狩村ニ御藏屋敷有之、御藏并

御役所共御普請之節ハ、人足・竹木・茅・繩・諸色入

用之品、組合村々田高割を以差出申候、尤御藏四方之

垣年々繕替申候、番人之義式人、下郷村組々給米拾四

俵田高割合ニ而差出申候、勿論御米納ニ付蒔繩糠割合

ニ而申候、具之義者下土狩々可書上申候

一 右御藏御年貢米納御用ニ付、御組中御越御逗留中内歩

式人并薪・茶・油・醬油・野菜、御米納之村方一同ニ

御賄差出申候

一 御拾分一場御屋敷三畝式歩御水帳ニ有之、高附ニ者入

不申、無高故御役茂掛り不申候

一 御拾分一御役所之義、先御地頭様御代々此方様御代迄、

御役人御兩人御居宅式軒西東ニ御座候、西ハ小関清左

衛門殿、東ハ鈴木程左衛門殿被成御座候処ニ、四拾三

年以前元禄十六未年頃鈴木程左衛門殿小田原江御召被

遊御居宅御払被遊候、右小関清左衛門殿茂小田原江御

召被遊、此御居宅段々修覆被 仰付、只今御役人様方

御兩人御一所ニ被成御座候、御居宅長サ五間・横式間

半、三方ニ式尺余之庇并式間ニ九尺之曲ヶ座敷御拾分

一錢御改所ニ候、外に雪隠壹軒、但三尺ニ六尺ニ御座

候、右御役所東向兩脇より南西北惣圍小竹八、九本組

ニ御座候、且又御用之小使人足年中当村ニ而差出相勤

申候

一 屋敷壹反七步、先御地頭様御代々名主喜与八先祖名主

役仕候、以来御取箇永御引被下候、尤年数相知レ不申

候

一 先御地頭様御代々御年貢納高米金之内五厘ツ、名主

給ニ年々御引被下候、御年貢米壹石ニ付五合ツ、永

壹貫文ニ五文宛ニ而年々御取箇次第増減仕候、年数相

知レ不申候

一 先御地頭様御代々当村高六拾式石壹斗六升三合、御拾

分一御役所御用之度毎小仕人足年中相勤候ニ付、諸役

御引被下候、年数相知レ不申候

一 先御地頭様御代々名主持高之内三拾石、御役懸り御免

ニ御座候、年数相知レ不申候

一 先御地頭様御代々村高之内三拾石、年中村継御用人馬相勤候ニ付御役御引被下候、年数相知レ不申候

一元禄七戌年三嶋宿大助役人馬被 仰付候

一元禄十六未年六月雨乞被遊被下候

一 享保十八・九年之頃、牛馬煩之葉井上大市兵衛殿御持

参ニ而、村々江被下置、難有頂戴仕候

一 当所前御厨往来橋上本川悪水払、三拾年以前享保元申

年水門口式間式尺余り川敷ニ地覆をいたし、七寸角柱

五本立、笠木七寸五六分角式間三尺余り、戸前式尺九

寸之戸四本落シ、水口破口川面迄高六尺ニ式間半打曲、

両脇ニ而五軒程はめ、水払式間式尺余ニ流六尺余り板

敷ニ仕候、古来者石倉四間之籠堰ニ御座候処ニ、出水

之節被押崩、早速石倉籠詰成兼用水不足仕、数年之儀

ニ而難義仕、水懸り九ヶ村相談仕候、過分之入用ニ而

右水門ニ仕候由、出水之節ハ昼夜ニ不限水門戸段々水

ニ応シ戸を抜申候、当村ニ而番人式人相定置申候、此

給分米式俵九ヶ村ニ而番人江相渡シ申候

一 当村榑苧ヶ所、長式間・幅苧尺余、是ハ野田与申所堀

抜穴口江掛渡シ申候、当村井上土狩村両村御田地用水

引申候、尤両村水掛りニ而修覆懸替仕候

一 当村橋数九ヶ所

訳

一 槻橋苧ヶ所、村頭当所前本川投渡シ、長四間半苧

尺四五寸角三本、是ハ先年苧尺式三寸角四本之節

茂御座候得共、只今掛置候者付上申候、先御地頭

様御代々此方様御代共御願申上候、御厨御林ニ而

被下置、只今有之候橋木神山村御林ニ而六年前

申年被下置候、水窪村之儀者小村、殊ニ御厨往来

橋之義ニ付、袖取賃引人足共被下置候、下郷村組

拾五ヶ村・中山村組八ヶ村・茱萸沢組拾四ヶ村、

都合三拾七ヶ村引人足被 仰付被下候、勿論御小

奉行様も御附被遊被下候

一 槻橋苧ヶ所、木瀬川投渡シ橋、長五間余・幅苧尺

五六寸、角式本

是ハ村之内諸事通用橋、古来ハ御座候

是ハ先年幅式尺八寸之平物杓枚懸候得共朽損、拾

一下郷拾五ヶ村組合之内槻橋御願申上候而被下置、村組

五年以前享保十六亥年御願申上、神山村御林ニ而

江引人足被 仰付候節、一同之割合ニ而差出申候

右式本被下置候、当村并ニ上土狩村両村山入会、

一箱根御関所御柵木修覆取替片替之儀、先御地頭様御代

御他領富沢村・一色村西山愛鷹山筋江入会、馬

ハ此方様御代今以相勤申候、御柵木古来者新木ニ而木

草・荳敷・薪・茅・薄・諸色共苧取申候、山橋作

数少ク申伝候処、天和年中朝鮮人来朝ニ付御公義様御

橋ニ御座候、杣取入用之儀、水窪村・上土狩村ニ

入用ニ而御改替、檜八角七寸廻り程長サ八尺余内杓尺

而差出申候、引人足之儀者下郷組合拾五ヶ村江

堀立ニ被遊、木数相増三千式百本余ニ罷成り、右八角

被 仰付被下候、尤御小奉行様も御附ケ被遊被下

之檜朽損候故、段々杉丸太を以取替、只今不残杉丸太

候

ニ罷成候、片竹之儀古来より箱根道往還両脇山之内豆

一 槻橋杓ヶ所 但長式間余杓尺四五寸角三本

州山中村上小竹之内伐来申候、尤豆州三嶋宿ニ山廻り

是ハ御拾分一御役所下夕御厨往來橋、右木瀬川

衆有之御留山ニ御座候得共、御関所御用ニ付無御構入

山橋当所前本川橋掛替之節、古木ニ而懸来り申

用程伐来申候

候

一 享保十九寅年小田原御表類火ニ付御普請御入用ニ付、

一 石橋式ヶ所 但長三尺四五寸幅三尺

御小物成之内納繩金納之積を以繩ニ而相納候様ニ被

是ハ御厨往來橋、村内村下ニ古来ハ御座候

仰付、御厨御領分三拾七ヶ村遠方之儀ニ付、人足為

一 石橋大小四ヶ所 但長三四尺幅式三尺

代繩合三千三百三拾九房之内八拾式房九分五厘、当村

の上納申候、尤箱根宿小田原町問屋方迄附送り候様被
仰付附送り申候、箱根宿ノ段々村継ニ小田原御普請
所江相届候由ニ御座候

一 先御地頭様御代ノ此方様御代ニ罷成候而も、下土狩村
御蔵米箱根御関所御用米ニ御取被遊候節ハ、御触次第
箱根宿海浦御蔵迄附送り申候

一 先御地頭様御代ノ此方様御代ニ罷成候而も、下土狩村
御蔵米船積被遊候節者、沼津宿迄御米津出シ仕候、且
又三嶋・沼津商人方江御払之節ハ附送り申候

一 享保四亥年朝鮮人帰国御泊り御用ニ付、鶏卵御厨御領
分江被 仰付相調御用ニ立申候得者、鶏卵羽代錢貳百
文・卵壺ツ代錢五文被下置候由、当村ニ者覚書無之相
知レ不申候

一 享保四亥年朝鮮人役駿府御代官小林又左衛門様ノ御尋
之由ニ付、御厨御領分村々名主・与頭老人宛小田原江
御召御吟味被遊候、下鄉村方之義箱根御柵木修覆取替
九百五拾貳本片替仕候、人足諸色入用代錢貳百九拾壺

貫百文神山村ノ竹原村迄相勤申候、御吟味之上一村切
ニ割付御朱印高百石ニ付錢八貫三百九拾四文之割合を
以当村江茂相掛り申候、一村一枚宛ニ書上駿府御代官
小林又左衛門様御役所江享保五子三月御添状に而被遣
被下候

一 諸勸進無用之札、享保三年戌十月佐野村名主藤右衛門
小田原ノ御窺写、村々江相廻シ候

一 年始町人百姓差上物御儉約中御用捨被遊候、十月被
仰出候

一 村之内御田地川欠道壞崩之節、御願申上候得者村組人
足被仰付被下候、尤御小奉行御附被下候

一 先御地頭様御代ノ此方様御代ニ成り候而茂、田植夫食
米奉願候得者、壺割五分之利足ニ而御貸被遊被下候

一 先御地頭様御代者井堰川除人足昼扶持米、壺人ニ付貳
合五夕宛被下置候

一 宝永四亥六月西丸様ニ而若君様御誕生被為遊、殿様御
墓目之御役御勤被遊候、惣百姓御祈禱仕御札差上申候、

殿様御意之趣廣中伊右衛門様・梅原九郎左衛門様より
被仰聞難有承知仕候

一 御公義様御高札之儀、前々々下土狩村ニ御立被遊相守
罷在候、依之御高札雨覆并行馬柵修覆諸入用、麦塚お
竹原迄七ヶ村高割ニ而差出申候

一 木瀬川河原ニ村林荅ヶ所

是ハ当村竹木内林無御座候ニ付、古来お松木仕立道

橋堰不時之村入用ニ仕候、右松木只今七八寸廻りお

式尺廻り余ニ御座候、外田畑圃之竹木二ヶ所所有之候

得共、地主居久根同前ニ所持申候

一 村定使差人給米六俵、村中高掛リニ差出申候

一 御用ニ付近村壺里近所江参り候小歩行人足、惣百姓・

無田・借屋等迄、番々ニ相勤申候、勿論遠方江参り候

得者、相応之賃錢高割ニ而差出申候

一 当村火之廻り、御年貢米取入秋收納之節お惣百姓・無

田・借地迄、家並番帳ニ而式人ツ、相勤、夜四五度宛

相廻り申候、尤休所番屋式ヶ所村之内辻合ニ造り置申

候、風立候節者村役人相廻り、火之元改申付無油断仕
候

一 近村方出火有之候節者、村役人人足召連(ツマ)欠付相働申候

一 村百姓・無田・借屋共ニ諸作ニ取懸り、永煩仕候節者

親類・五人組・村百姓共諸作之手伝仕候

一 当村人馬入会山等江参り相煩候得者、村お大勢罷越召

連罷帰候、且又村之内口論高音仕候節ハ、村中欠付事

相応ニ相済申候

一 村百姓・無田・借地ニ不限不屈者御座候得者、村役人

吟味仕筋目承得心仕候迄押込置申候、事ニ寄り五人組

江預ヶ置候儀も御座候、内分ニ而相済候事ニ御座候得

者、御上江者不申上候

一 旅人参り候而独宿申越候節者、村役人相改、慥成者ニ

候得者一夜之義者木錢宿申付候、勿論胡乱成者者行先

江村送り仕候

一 当村之内旅人煩罷有候得者、生国古郷又ハ親類等承届

早速申通シ引取らせ申候

一元文四未春当村ニ飢人男女廿四人御座候処、村ニ而徳役ニ扶持合力仕候処ニ、小田原江名主・組頭御召御料理被下、名主ニ者御金壹分被下置難有頂戴仕候

元文六年酉正月当村江御寄被遊御酒被下候、御入用之程失念仕候

一親甚兵衛儀、御借用金三嶋・沼津・原宿迄町人方へ罷越し、御年貢米を以御返濟之儀竹原村伝左衛門と一同

一先御地頭様御代々当村家並薪七駄、代金壹分銀式匁五分納申候

いたし相働、享保十六亥二月々御扶持被下置、私迄段々増御扶持米被下置、右御借用金世話被 仰付

一先御地頭様御代々当村糠・藁代銀拾壹匁六厘納申候
一先御地頭様御代々繩八拾式房九分五厘、代金壹分ト銀五分五厘納申候

一右御借用金下郷村方御田地質入ニ仕、村役人印形仕、親甚兵衛・竹原村伝左衛門加判仕被 仰付調出候付、

一先御地頭様御代々莖九枚式分式厘、代銀式匁三分納申候

享保十二未年頃御代官佐藤佐次右衛門様・森岡六左衛門様下郷御給見御仕廻之節、下郷村々名主・与頭共ニ六拾人余御召、強飯・御酒被下置候、御入用餅米式俵・御酒壹樽程之由申伝候

一富士山砂降り御上地ニ罷成、宝永五子年伊奈半左衛門様御支配被 仰付、八、九年御料所ニ而、享保元年申年御戻シ村ニ被 仰付候

一右御借用ニ付、享保拾四年酉正月、下郷村々名主・与頭へ御酒代金三両被下置、壹人ニ付錢式百三拾六文五分、名主六拾三人江相渡申候、難有村々役人頂戴仕候

一右御支配ニ成、宝永五子年砂払麦種代共ニ御救金高百石ニ付金式両程宛、村々名主・組頭壹人ツ、御役所江

一田畑御年貢皆濟仕候御厨上郷・下郷村方名主・与頭、

御召御渡シ被下候、寺社方江者御役人御廻り御泊リニ

而、最寄御呼銘々御渡シ被下候由ニ御座候

相勤申候、先御地頭様御代之儀者相知レ不申候

一 右支配之節、田方御年貢米御取付、上中下共に頭免・下免ニタ通ニ被 仰付候、浅草御藏納迷惑奉存、相場被 仰付次第石代金上納奉願、年々穀代金上納仕候処

一 此方様御代、御參府御帛城其外御祝義之儀者、下郷拾五拾組合申合、名主壺人小田原御役所江罷出相勤申候

正徳三巳年之頃皆米江戸浅草御藏納ニ被 仰付、御年貢米村拵ニ仕、御役人様方米見御召連御廻り、中札・上札俵入貫目共ニ御改被遊、沼津出シ舟積仕浅草御藏

一 先御地頭様御代々此方様御代迄、御厨御殿場ニ御茶屋有之候節、御普請御用之節繩人足出申候、尤此方様御代ニ罷成御払被遊代金御領分村方江五分之利足ニ御貸被下、元利金御取立村々代り々ニ拝借仕候

江上納仕候、舟賃之義者伊奈半左衛門様々御渡シ被下候、納名主諸入用上乗給分百姓方々俵数割を以差出申候

一 此方様御代享保元申年々、江戸勤・小田原勤御中間、高千石ニ付壺人六分三厘余被 仰付、御朱印高ニ而相勤申候、尤御給金被下候得者足シ金仕、江戸勤壺人銭六貫文・小田原勤銭三貫文割合ニ而差出相勤申候

一 先御地頭様・此方様御代、御年始御祝義江戸御屋敷御厨惣代名主壺人正月御礼ニ罷出候、尤駿州・相州・豆州三筋御領分惣代式人罷出候儀も有之候、依之御礼入用代御皆濟時御代官様江上納仕候処ニ、富士山砂降御

一 此方様御代元禄二巳年・同三年、御厨御林ニ而槻御材木御取被遊候、牛引御厨御領分高役ニ被 仰付相勤申候、牛御扶持大豆壺疋ニ付壺升四合程被下置候、尤高掛り相知レ不申候

上地ニ罷成候而戻村と罷成、享保元申年々江戸御礼御免被遊、小田原御礼御厨惣代ニ被 仰付候、名主壺人

一 此方様御代元禄十六末年、江戸本庄御屋敷御材木御厨

下郷組合并中山組・茱萸沢組三組ニ而代り々年番ニ

御林ニ而御取被遊、御厨御領分沼津出シ牛引割合高割

ニ被 仰付候、三嶋宿大助役之村方ハ半役ニ被 仰付、
 当村之儀右大助役場ニ而牛引割高掛り拾疋六分相勤申
 候、御扶持方米七合五夕ニ大豆式升宛被下置候

一 此方様御代宝永二酉年、小田原御天守御城御材木富士
 山麓御林ニ而御取被遊候、御林々竹下村川端花戸迄牛
 引割合御厨御領分高割ニ被 仰付相勤申候、尤牛疋疋
 之賃錢百廿文ツ、被下候

一 此方様御代享保廿年卯三月、御厨下和田村御林ニ而小
 田原慈源寺御材木御取御厨御領分江御頼被遊、佐野村
 々沼津出シ引人足村ニ応シ人足指出シ申候、右御材木
 御小奉行竹内伊助殿江人足都合之儀者書上申候

一 此方様御代享保十三申年、神山村御林ニ而榎御材木御
 取被遊、沼津出シ請負賃錢入札仕候様ニ被 仰付、鶴
 岡太左衛門様々御配府相廻り候得共、当村ニ請負人無
 御座入札不仕候、其後御沙汰無御座候

一 享保二年々三、四年之内、御厨下和田村御林ニ而屋根
 板御取被遊、御厨御領分江沼津出シ馬附被 仰付候、

下郷之儀佐野村々沼津宿江附送り仕候、壹駄ニ付賃錢
 六拾文程ツ、附送り申候、右御用ニ付御小奉行々御触
 次第小繩老房代錢六文・大繩老房代錢八文・五斗入俵
 壹ツ代錢拾四文、御林迄届売上ヶ証文差上代錢被下置
 候

一 此方様御代宝永三戌二・三月、相州大川通り川除御普
 請

此間者直ニ続て可書処、疎走(租)ニ而間を明申候
 有之、御領分中江賃人足被仰付、御厨之義遠方越夫ニ
 付相州高掛り三分一ニ被仰付候処ニ、正月御配府ニ而
 先達而三分一之人足半分差出候様ニ被 仰付段々相勤
 申候、人足尅人ニ付賃錢百文被下置候、勿論町場割茂
 御用捨ニ而増錢取候もの茂有之候由

一 御公儀様々国々川役金享保年中之頃々被 仰付、其年
 之御触之通り有高ニ而上納仕候、尤御免之年茂御座候
 一 伊奈半左衛門様御支配之節宝永七寅年、琉球人來朝ニ
 付上下継人馬役駿州吉原宿ニ而駿府御代官様より被

仰付、下り之節者吉原宿を三嶋宿迄、登り之節者吉

原宿を江尻迄相勤申候、覚書等無御座新役ニ奉存候

一 右支配之節正徳元卯年、朝鮮人來朝ニ付駿州藤川舟渡^(當七)

シ役被 仰付、竹原村を公文名村組合七ヶ村高式千九

百廿四石九斗四合ニ掛り、人足渡役ニ仕賃金百壹両錢

五百文、高百石ニ付八貫百五文ツ、指出シ相勤申候

一 右御支配正徳元卯年、朝鮮人來朝ニ付上下継人馬役豆

州三嶋宿ニ而人馬御役人野田三郎左衛門様御手代山岸

弥平次殿・雨宮勘兵衛様御手代白沢竹右衛門殿御兩人

を被 仰付、下り之節者三嶋宿を小田原宿迄人足五

人・馬四疋、登り之節者三嶋宿を江尻宿迄人足九人・

馬五疋相勤申候、此諸人用竹原村を御他領久根村迄大

助役組合八ヶ村ニ而都合錢七百廿三貫七百拾九文之内

三拾九貫九百四拾文役掛り当村差出申候

一 右支配正徳四年、琉球人來朝ニ付継人馬駿州吉原宿

ニ而駿府御代官様を被 仰付、下り之節ハ吉原宿を三

嶋迄人足拾三人・馬式疋村立人馬ニ而相勤申候、右入

用高百石ニ付錢四貫六百七拾四文宛相掛り、竹原村を

公文名村迄組合七ヶ村指引仕候、登り之節ハ継人馬吉

原宿を江尻宿迄右七ヶ村一同ニ吉原宿江渡役ニ仕、金

四拾兩永四拾文七分差出申候

一 此方様御代ニ罷成り享保三戌年、琉球人來朝継人馬駿

州吉原宿ニ而駿府御代官小林又左衛門様を被 仰付、

竹原村を茶畑村迄組合六ヶ村一同ニ上下共吉原宿江渡

シ役ニ仕候、賃金六拾七兩式朱永百廿六文六ヶ村ニ而

差出申候、此節者公文名村相除六ヶ村高式千四百三拾

七石式斗七升八合ニ掛り相勤申候

一 此方様御代享保四亥年、朝鮮人往來継人馬御公義様御^(儀)

入用ニ而請役ニ被 仰付、高百石ニ金三分銀五匁同六

年丑年御取立被遊 御公義様江御上納被下候、舟橋

役勤所ハ高百石ニ金壹分式朱被 仰付候由ニ御座候

一 右六度之唐人役、古來を相勤不申新役ニ奉存候、私共

村方神山村を竹原村迄之儀、下郷組合拾五ヶ村古來を

相州箱根御関所付ニ而御柵木役相勤、外御役勤不申、

依之新役与申候

一元禄七戌年、豆州三嶋宿助郷豆州ニ而高四万石余ニ而相勤候処、御割替只今高三万石余ニ被 仰付候、右戌

年ノ竹原村ノ御他領同郡久根村迄助郷役被 仰付、下土狩村者定助役相勤、残ハケ村大助役相勤申候、古来

ノ相勤不申新役場ニ罷成、且又享保九辰年ノ定助・大助名目相止メ打込ニ被為 仰付大役ニ罷成候、定助相

立候節者宿人馬・定助人馬ニ而往還御用人馬平生相勤候、川支并御參勤大分之人馬御用之節計大助村々相勤

候、依之下土狩村之儀私共助郷組竹原村ノ公文名村迄諸役一統ニ相勤申候、佐野・石脇・岩波・神山四ヶ村

并御厨御領分割合之節者、定助役相勤候之通リ下土狩村相除、助郷組合之内ニ而割合掛リ申候

一元禄拾四巳年、南都大仏勸金、御朱印高百石ニ付金壹分宛被 仰付、当村金壹分永百六拾四文五分六厘、但

シ錢ハ両ニ四貫百三拾文替ニ而御取立被遊御上納仕候、翌年ノ十月も御朱印高百石ニ金壹分宛被 仰付、当

村金壹分永百六拾四文五分六厘御取立上納仕候

一 御由緒之寺社方御免勸化之儀、御触之通リ百姓志次第村中差出申候

一 享保十八丑年、世間時節煩ニ付、小田原玉瀧坊江被仰付御祈禱御札被下置、難有村頭ニ相立申候

一元禄十四年巳五月、照統雨乞小田原玉瀧坊ニ被 仰付、難有為御礼上御厨ニ而名主兩人小田原江罷出候

御巡見様御廻之覚

一 宝永六年丑五月、相州・駿州降砂無開発御見分、伊奈半左衛門様・河野勘右衛門様・御徒目付様・御小人目

付様、相州ノ上御厨江御越、三四日御見分被遊下郷江御下り、伊豆嶋田通リ三嶋宿江御一宿被遊御帰被遊候、

御朱印人馬御支配所村々ニ而差出申候
一 宝永七年寅三月、御国廻リ梶四郎兵衛様・田中市左衛

門様・河口藤右衛門様、相州ノ上御厨御廻り、下郷佐野村ニ御一宿ニ而沼津江御泊リ被遊候、御朱印人馬御

領・私領駿東郡近在最寄村方組合ニ而差出申候、佐野

村御泊り之儀者内歩御賄諸色御一領村方ニ而相勤申候

一 正徳二年辰九月、森山又左衛門様・境野六左衛門様・

園部善左衛門様御三人、豆州三嶋宿ヲ御移伊豆嶋田御

泊り、上御厨御見分被遊、佐野村江御帰り御一宿被遊

沼津宿江御通り被遊候

一 正徳五年未十月、御普請所御巡見曾根茂右衛門様・鈴

木運八様、上御厨ヲ佐野村通り、沼津宿江御通被遊候、

駿州ノ四ヶ国御廻り之由ニ候、尤御朱印人馬御一領ニ

而指出申候

一 正徳六申年閏二月、御領所御巡見岩出長三郎様・鈴木

平十郎様・神谷伝五左衛門様御三人、豆州三嶋宿ヲ御

移り伊豆嶋田ニ御泊り、上御厨八日程御見分被遊、御

帰佐野村ニ御一宿、沼津宿江御通り被遊候、御朱印人

馬御賄共ニ御一領ニ而相勤申候

一 享保二年酉正月、御国廻り杉浦酒之丞様・渡邊郡左衛

門様・山岡五郎作様御三人、相州ノ上御厨御廻り佐野

村ニ御泊り、沼津宿江御通被遊候、御朱印人馬御料・

私領駿東郡近在最寄之村方差出申候、御泊り内歩御賄

諸色御一領ニ而相勤申候

一 享保八年卯九月、水損場御廻見伊藤喜右衛門様・天野

源五兵衛様御二人、上御厨ヲ御通り、当村ニ而御朱印

人馬相繼沼津宿江御通り被遊候、尤御人数少く馬六

疋・人足拾九人程相立申候、御先触茂無之、脇村江も

御構なく、往還筋御通被遊候、往来村方村境ニ罷出御

案内仕候

一 享保拾六亥年五月朔日、殿様江御目見被仰付候ニ付、

相州・豆州・駿州上納物、手柳壺荷壺斗入・昆布拾把

一台・鯉節百節一台差上申候

一 御用金相勤候ニ付、名主甚兵衛ヲ又右衛門迄御扶持米

被下候訳

一 御扶持式人分 享保十六亥二月

一同 壺人分 元文三年十二月

一同 式人分 元文五申四月

一同 式人分 寛保三亥八月

七人分

一元禄二巳年迄郡内谷村を御茶壺を駿州久野山江御通り、御朱印人馬沼津宿迄差出申候、其後者相止ミ申候
一先御地頭様御代寛文五巳年々、無願ニ居久根之竹木御免ニ而家作諸色ニ百姓勝手次第伐取申候

一宝永二酉年六月廿二日夜、満水ニ而当所(前本)川土手破

損仕候故、翌年戌二月十九日を御他領水懸り四ヶ村并下郷之五ヶ村組合人足ニ而御普請被遊被下候、御小奉行持戸須磨右衛門殿御付被下候

右之通り当村諸色相改、其外及承り候通り委細ニ書付差上申候、以上

延享二年丑七月

水窪村

名主 喜与八

組頭 半右衛門

同 治兵衛

百姓代 与左衛門

横井平助様

谷川祖左衛門様

此主

渡邊又右衛門

安永四年

是迄水論之節御檢使様江上ル、但し用水并相さわり候文言等ヲ除キ、右之通りヲ写し指上ル

右之通り古書見当り候間、以後為心得写置申候、譬不用之書類与存候共、鹿略ニ不相成様年々虫干等致大切ニ手置可申候、沢山ニ無之書類也、依而写置候

弘化五申年三月

水窪村

名主 治三郎 写之

(裾野市水窪 渡邊公一氏所藏)

三 安永五年七月 大畑村戸口・馬数書上

座候、以上

安永五丙申七月

〔端裏書〕
御普請御役

御兩人様へ差上候下書

大畑村

大畑村

富沢村兼帯

名主 嘉 六

組頭 傳左衛門

秋山十右衛門知行所

駿州駿東郡大畑村

一家数合拾三軒

但シ無田・借地共ニ

高橋小兵衛様

豊田長次郎様

〔裾野市富沢 渡邊武彦氏所蔵〕

一人数合五拾三人

内 式拾六人男
式拾七人女

但シ当歳以上当年御改之分

三 安永五年七月 富沢村戸口・馬数書上

一村中百姓持馬 三疋

但シ何れも女馬計リニ御座候

〔端裏書〕
高橋小兵衛様
豊田長次郎様
江差上申候控へ下書

一 駿州沼津宿江道法 三里半

但シ古来々申伝計リニ而、在山家道〔御〕座候

秋山十右衛門知行所

得者、駈と相知シ不申候

駿州駿東郡富沢村

右者此度書上候様被為仰付候ニ付奉差上候所、相違無御

一家数合式拾八軒

但シ無田・借地共ニ三拾九人

一人数合百四拾五人

内 七拾三人男
七拾貳人女

但シ当歳以上当年御改之分

一村中百姓持馬

六疋

但シ何れも女馬計リニ御座候

一 駿州沼津宿江道法 三里程

但シ古来々申伝計リニ而、在山家道ニ而耽

とハ相知レ不申候

右者此度奉書上候様被 仰付候ニ付奉差上候処、相違無
御座候、以上

安永五丙申年七月

富沢村

名主 嘉 六

組頭 久 蔵

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所蔵)

西 (七七七)
安永六年八月 葛山村明細帳(竪)

(表紙)

安永六西年

駿河国駿東郡葛山村明細帳

八月日

松平内蔵允知行所

葛山村

村方控帳

八拾年以前元録(録)十一寅年当御地頭ニ成ル

松平内蔵允知行所

駿州駿東郡 葛山村

百六年已前寛文十二年

田方 千賀三右衛門様

御検地

畑方 井田伊兵衛様

宇佐美市左衛門様

御水帳三冊

一 高四百貳拾壹石四升四合

田畑屋鋪共

小以反別三町八反十三步

永荒引

分米十六石三斗八升六合六夕

無地高

反別六拾三町三反貳畝九步

高 壹反九セ十步

五斗七升三合三才

内

高 三石壹斗四升

山手役御高ニ結

田反別六町八反四畝廿七步

但シ三丁五反八セ一步両毛作

郷藏屋鋪

此分米八拾九石四斗壹升六合六夕五才

内 田方永荒

畑反別四拾六町五反七畝步

酉之川欠溝代引

此分米貳百八拾六石壹斗貳升三合六夕六才

未之永荒引

屋敷壹町六反九セ步

申之永荒引

此分米拾六石九斗

午之山崩道代引

此訊

申年御地頭改荒引

十四盛上田四町三反五畝十四步

溜井地代引

分米六拾石九斗六升五合三夕貳才

宝永年中改引

十二盛中田壹町七反八畝拾貳步

酉戌亥の永引

分米廿壹石四斗八合

享保年中荒引

十ノ盛下田六反八畝壹步

分米六石八斗三合三夕三才

内五反九畝三步

ハッ盛下々田三畝歩

永荒

分米貳石九斗六升七合

未荒永引

分米貳斗四升

壹反壹畝貳歩

ハッ盛上畑拾貳町六畝廿七歩

分米七斗九升五合

申年荒引

分米九拾六石五斗五升貳合

貳反八畝七歩

内 三七十歩

郷藏敷引

分米壹石四斗三升五合

同断荒引

分米貳斗六升六合六夕

七畝七歩

拾貳町三セ拾七歩

分米三斗八升三合

午ノ山崩道代引

分米九拾六石貳斗八升三合六夕

七反歩

七ッ盛中畑八町五反貳畝拾五歩

分米三石五斗

申ノ年御地頭様
御改之下荒永引

分米五拾九石六斗七升五合

廿四町貳反貳畝九歩

内 貳反七歩

宝永二酉年

分米百廿石八斗壹升六合

分米壹石四斗四升七合

満水川欠溝代引

三ッ盛下々畑七町九反五畝六歩

八町三反貳畝八歩

分米廿三石八斗五升六合

分米五拾八石貳斗貳升八合

内貳反七畝廿貳歩

元禄十丑年ノ溜井地
代引

五ッ盛下畑貳拾五町九反七畝廿八歩

分米八斗壹升七合

分米百廿九石八斗九升六合六夕六才

八反八畝六歩

宝永元申年地頭改ニ
而永荒引

第2章 村々の概況

分米式石六斗四升六合

一種物借

当村ニ無御座候

五反五畝六歩

一 御地頭様御物借金三拾兩

分米壹石六斗七升 西戌亥ノ永荒引

是ハ去未申兩年麦作違ニ付、百姓御助夫食ニ御願

七畝三歩

申上候得者被 仰付、御返済之義ハ当暮ノ三ヶ年

分米式斗式升

引 享保年中寅年ノ荒

ニ被 仰付候

六町壹反六畝廿九歩

一新山之儀

当村内ニ而取来申候

分米拾八石五斗三合

一株苜場

大野原と申所ニ而苜来申

四ツ盛新見取式反五畝廿六歩

候、入会村方七十ヶ村入

分米壹石三升四合六夕六才

会申候 当村ノ野口迄半里余

十ノ盛屋鋪壹町六反九畝歩

一 当村嶽山ハ愛鷹山東面ニ而

分米拾六石九斗

但シ山境東ハ御宿村・上ヶ田村、西ハ長久保、

一 高三石壹斗四升 五ツ四分取

山手

北ハ下和田村・今里村、南ハ千福村

一 田畑起返り場

当村無御座候

一 田畑水腐場

毎年者無御座候

一新田畑

当村ニ無御座候

申候

一米役永

相納不申候

一 当村嶽山之内本洞入・須釜入一と申所、北境先年今里

一 舟之儀者

当村ニ無御座候

村・下和田村と及論、御檢使前ニ而山八合通り江御は

り紙御座候而、御見分無御座内ニ御はり紙通り境ニ相

心得罷在候、右之訳御裏書御座候御絵図被下置候

一 当村嶽山之内之洞与所十五ヶ村入会ニ御座候

大畑村・富沢村・一色村・納米里

村・本宿村・水久保村・上土狩

右入会村 村・中土狩村・下土狩村・柿田

村・新宿村・伏見村・長沢村・竹

原村・八幡村

右十五ヶ村山元葛山村都合十七ヶ村

一 当村嶽山之内本洞与申所、是ハ前々郷山ニ御座候

一 当村嶽山之内三洞日なた平与申所葛山村両村入会

右八ヶ所之山手御年貢米壹石六斗九升五合六夕

一 御伝馬宿入用 当村無御座候

一 六尺給米・御蔵入用 当村無御座候

一 芝地野永 当村無御座候

一 浜運上等 当村無御座候

一 漁獵運上 当村無御座候

一 御林・御地頭林

一 百姓持林之儀

一 苗木林

一 下草永・落葉永

一 御林守十分一

一 万浮役・河原役

一 鉄炮役・立敷

一 漆納

一 大豆納

一 萱野者 当村入山之洞与申所ニ御座候、苺取申候

一 此山手之義右八ヶ所御年貢内ニ御座候

一 芦野者 当村無御座候

一 御年貢者四斗入 私領ニ而御船積不仕候、大方者

其所ニ而御払被成候

一 御年貢米金・小物成請納方日限無滯上納仕、尤例年格

を以御下知以前百姓蔽敷申渡仕度為致置、御日限通取

立仕来り申候

凡反別四拾(町)但雜木立ニ而小竹重り相分り不申候

当村無御座候

当村無御座候

当村無御座候

当村無御座候

当村無御座候

当村無御座候

当村無御座候

当村無御座候

第2章 村々の概況

一 欠米諸運上 当村無御座候

一 用水堰山沢古道堰 長五間 横壹間 石堰 壹ヶ所

一 用水堰山沢新元堰 長六間 横壹間 石堰 壹ヶ所

一 用水堰御宿村新堰 長八間 横壹間 壹ヶ所

是ハ箱根湖水ニ而字新せ義与唱五ヶ村組合ニ而用水

引取申候、尤普請之儀者年々組合自普請仕来申候

一 用水溜井 壹ヶ所

是ハ金沢村地内ニ而金沢村・葛山村両村ニ而用水引

取申候、尤水門・樋口等損候節者両村ニ而御地頭様

へ御願申、金壹両式分ツ、御地頭様を被下置普請仕

候

一 用水溜井 下々畑式反七畝廿式歩 壹ヶ所

是ハ当村ニ候へ共場所悪敷故ニ水相持不申潰申候

一 悪水川原 字宮川 壹ヶ所

是ハ大野原溜水 悪水川村内長十五丁横場所ニ八間十間など

一 悪水堀 長五百間 村中通り申候 壹ヶ所

是ハ源ハ金沢村溜井悪水払ニ而

但シ村内東西へ流申候、右土手普請之儀者御宿村・

千福村・上ヶ田村・当村共四ヶ村ニ而仕候

一 当村山沢 川巾凡四間 川長凡壹里余 御田地用水

源ハ三洞与申所る瀬名沢江落合申候、村内ニ少々

但 御地頭様御普請所御座候、尤石詰仕候、先年酉ノ

満水之節者御入用被下置候、只今破損償ハ自普請

仕候

一 川除等 只今迄ハ無御座候

一 石出蛇籠等 当村無御座候

一 用水入樋等 当村無御座候

一 土橋 長式ヶ所ハ式間半、壹ヶ所式間

横三尺四尺 三ヶ所 但自普請 山沢川

一 御年貢米納方三斗五升之倭切、出目五升入、四斗入相

納申候、尤御蔵米百五拾表相納り俵残者金納ニ而度々納

申候

一 延米・口米之義ハ前々々相分り不申候

一 当村東西ハ御宿村境ヨ山嶽長久保村境迄弍里、南北江

十四丁、隣村者東者御宿村・上ケ田村、西ハ愛鷹山、

南ハ千福村、北ハ金沢村・今里村・下和田村

一 富士山者戌亥ニ当リ、天城山・鷲頭山ハ南ニ当、箱根

山者東ニ当、海辺ハ午末ニ当ル

一 当村ヨ江戸迄陸路三十里

但シ東海道者三嶋宿江出申候、甲州路之近道不奉

存候

一 江戸江海上沼津ヨ七拾里

一 駿府迄道里拾九里

一 沼津迄同四里半

一 清水迄同拾七里

一 沼津宿加助役相勤申候

但九月駿府御番衆様御交代之節丸高相勤申候

一 村内ニ渡船・往還掃除丁場

当村無御座候

一 御朱印高十三石弍斗余

浄土宗 日当山仙年寺

是ハ京都知恩院末寺

富士浅間領
一 御除地下畑壹反九畝廿五步

別当 明王寺
修驗

八幡領 高九斗九升弍合
一 御除地下畑壹反弍畝歩
高六斗

禰宜弥右衛門

一 仙年寺控地

依京寺

一 仙年寺控地 薬師堂

壹ヶ所

一 仙年寺控地 庚申堂

壹ヶ所

一 山神宮

式ヶ所

一 名主老人

是ハ給分前々ヨ高百石ニ付十石ツヽ役高引ヲ仕相勤

申候

一 組頭三人

是ハ米弍表代ヲ三人割村之役ニ入相勤申候

一 米見

是ハ組頭加役ニ相勤申候

一 高札場

壹ヶ所

一 郷蔵番

百姓共廻り役ニ相勤申候

一 升取取人

給分錢六百文宛給分百
村役入申候

第2章 村々の概況

一定使壹人 給分ハ百姓前石集メ仕候

一 医師・浪人 当村無御座候

一 木挽壹人 御座候

一 大工式人 御座候

一 桶屋 当村無御座候

一 瞽女・座頭 当村無御座候

一 屋ね板へき四人 御座候

一 山伏式人 御座候

一 御貸付鉄炮ハ 無御座候

へ鉄炮帳差上ケ置申候

一 小売酒屋 壹軒

一 馬三拾疋 御座候

一 牛式疋 御座候

一 土地ハ黒野地石まぢり

一 田植ハ五月中迄ニ仕付仕候、稲作者(中稲)中手多作申候、

秋ハ土用中茹入仕候

一 田方種入壹反ニ付粃壹斗ツ、但シ上中下同断

但 田畑共麦種壹反ニ付壹斗ツ、小麦ハ壹反ニ付五升宛

一 田畑小作入上

(マメ)上壹反ニ付 米四表半

中田壹反ニ付 右同断

下田壹反ニ付 右同断

畑方ハ上中下共山畑ニ御座候間相定り候義無御座候

一 田畑屋敷質入直段 田壹反ニ付金三両位

畑壹反ニ付金三両式分位

百姓所持之
一 鉄炮八挺 威筒

持主 直右衛門

安次郎

喜右衛門

弥平門

定右衛門

嘉左衛門

持主 彦新四郎

一 獵師筒式挺 是ハ小長谷勘左衛門様御吟味之上、畜類多諸作荒候

問百姓難義ニ付、右之通御免被成下候、尤御地頭様

一 畑作者大麦・小麦・粟・稗・菜・大根・芋、右之通作

り申候

一 稲作 ひせん・たろやらく・うづら・大やらく

右之内ひせん・たろや楽多ク作り申候

一 田畑こやし之儀者夏秋冬迄馬草蒞ためこやしニ仕候

一 農業之間、男ハ薪取・炭焼・小竹伐稼仕、女ハ山出シ

等手伝木綿等取売代替、或は春中ハ猪鹿除仕候、山付

稼在所ニ御座候

一 百姓夫食之儀者年中粟・稗・麦・芋・菜・大根等を用

申候

一 原地・芝地・空地等無御座候

一 田畑見立新田無御座候

一 家数百拾四軒 但シ大小百姓惣家数

此訳ケ 本百姓百軒

無田・水吞十四軒

一人別五百拾九人 但シ大小男女下男下女共

此訳 男式百七拾九人
女式百四拾人

右御尋ニ付今般委細相改書上申所相違無御座候、以上

松平内蔵允知行所

駿東郡葛山村

名主 嘉左衛門

組頭 喜右衛門

同 勝左衛門

同 定七

百姓代 太兵衛

内藤源八郎様

栗原礼助様

(裾野市葛山 葛山区有文書)

五 (二七九七)
寛政九年三月 御宿村明細帳(堅)

(表紙)

寛政九巳年
駿河国駿東郡御宿村明細村差出帳
三月

村差出手形之事

一 高三百七拾貳石八斗七升六合

駿東郡

御宿村

内 四石五斗五升壹合

溝代并前々引

此反別六拾七町七反三畝拾九步

但高百石ニ付拾八町壹反六畝貳拾九步

内貳町貳反三畝拾九步

溝代前々引

田方百九拾九石四斗五升八合

此反別六町五反八畝貳拾三步

畑方百七拾三石四斗壹升八合

此反別五拾壹町壹反四畝貳拾六步

内 訳

上田五町壹反七畝九步

十五盛

此分米七拾七石五斗九升五合

中田三町八反五畝貳拾四步

十二盛

此分米四拾六石貳斗九升六合

下田七町五反五畝貳拾步

十盛

内 九步 分米三升 溝代引

此分米七拾五石五斗六升七合

上畑四町三反八畝貳拾貳步

八盛

内 拾四步 分米三斗七合 溝代引
内 貳町三反九畝步 分米九石壹斗貳升 田ニ成

此分米三拾五石九升九合

中畑貳町九反六畝拾六步

七盛

内 四步 分米九合 溝代引
内 貳町壹反五畝拾九步 分米拾五石九升四合 田ニ成

此分米貳拾七石七斗五升七合

下畑七町七畝拾八步

五盛

内 貳拾步 分米三升三合 溝代引
内 三町七反八畝四步 分米拾八石九斗七合 田ニ成

此分米三拾五石三斗八升

下々畑三拾五町六反式畝式拾貳步 二 盛

内式町式反式畝三歩 分米四石四斗四升式合 前々引
内四畝式拾貳步 分米九升五合 田ニ成ル

此分米七拾壹石式斗五升五合

屋鋪壹町九畝八歩 十 盛

内五畝四歩 分米五斗壹升三合 田ニ成ル

此分米拾石九斗式升七合

一 高拾壹石式斗九升壹合 五 盛

此反別式町式反五畝式拾五歩 新下畑

一 高式石式斗八升三合 五 盛

此反別四反五畝式拾歩 新下畑

反別合七拾町四反五畝四歩 田畑屋敷共

此高三百八拾六石四斗五升 本新共

一 山手役米六斗式升四合

一 御林壹ヶ所 長三百間 横三十間 当時堅山

一 海川山獵師船役諸運上物何ニ而茂無御座候

一 水帳 四冊

是八百式拾四年以前寅年、野村彦太夫様・諸星庄兵衛

様御檢地

一 水帳 式冊

是八百七十七年以前申年、市野惣太夫様御改帳壹冊

百壹年以前、野田三郎兵衛様・大草太郎左衛門様・内

山七兵衛様御三人御改帳壹冊

一 御蔵屋鋪壹畝拾四歩 但五間半 八間 壹ヶ所

是八百以前寅年以來芝間御蔵屋敷ニ被 仰付御檢地

一 御朱印高無御座候

一 八幡免 下田式反式畝拾歩

一同断 下畑式反歩

一 八幡之宮 名主 彦三郎控

一 山之神宮 百姓 甚四郎控 伴右衛門控

一 駒形之宮 同 留右衛門控

一 東路之宮 同 源左衛門控

一 寺中七畝歩 本寺京都智恩院 浄土宗 莊園寺

一 寺中七畝歩 本寺京都智恩院

一下畑七畝歩

同寺領

一寺中式反七畝六歩

本寺千福村普明寺

禪宗 向西寺

一地蔵堂当村莊園寺支配

壺ヶ所

一御高札場

壺ヶ所

一樋堰免無御座候

(付箋) 未々金治事去年死去減ス、年四十四歳、未々父市左衛門離縁ニ付相除申候

処、又候婦縁いたし候ニ付書入仕候」

一百姓家数七拾壹軒

本百姓・水呑共

一去辰年人別ノ三百式拾五人

男百七拾人
女百四拾八人
内訳僧四人
山伏三人

一村中馬数式拾三疋

但女馬

一牛ハ無御座候

(付箋) 一外ニ女老人死去減ス」

一七拾五年以前卯年ノ沼津宿江九月駿府御番御交代之節

計り往還役大々増助郷役相勤申候処、八年以前戌年ノ

相勤不申候

一郷御蔵定番壺人、給米式斗毎年出候、此外添番一夜ニ

壺人ツ、出シ申候

一定使給米壺石式斗、麦壺石六斗每年出申候

一升取給米式斗毎年出シ申候

一火廻り番人家別ニ十月ノ三月迄昼夜仕候

一名主給高三拾九石三斗六升、諸役除申候

一名主方へ惣百姓ノ毎年手間式人ツ、助合申候、田植・

麦蒔

一組頭給米式俵村中ノ出シ申候、但高割

一当村中ニ耶蘇宗門惣而疑敷宗門之もの壺人茂無御座候、

若隱置候ハ、其者一類村中共曲事ニ被 仰付候

一鉄炮五挺 内 壺挺獵師鉄炮、御運上なし
四挺おどし鉄炮、不玉込

大野原小田原御領分之野前々ノ村々入会

一秣山 愛鷹山之内須釜入与申山四ヶ村入会、御宿村・上ヶ

田村・金沢村・葛山村外三ヶ村者松平内蔵丞様御知

行所地元葛山村之内山ニ御座候

一愛鷹山之内小田原御領分今里村・下和田村両村分山へ

先年ハ六ヶ村入会ニ御座候処、百四拾三年以前未年及

出入候而 御公儀様御裁許、重而御檢使被遣候迄先御

- 村組者六ヶ村山元今里・下和田両村者入申候、御宿村・上ヶ田村・金沢村・葛山村ハ入不申候、立会絵図式枚御裏書被遊老枚ハ山元下和田村ニ預申候
老枚ハ葛山村ニ預り申候
- 一 当村田方用水木瀬川定水ニ用来り申候処、水論ニ及、式拾年以前申年御裁許被 仰付、箱根水同様ニ相成申候
- 一 同新堰かろうと堰普請人足ハ御宿村・上ヶ田村・金沢村・葛山村・千福村五ヶ村用水掛合ニ而自普請ニ仕候
- 一 川除三式ヶ所石出し式ヶ所 御入用御普請所御座候
- 一 悪水払式ヶ所 右同断
- 一 当村御年貢之儀七拾四年以前々皆米納ニ被仰付候
- 一 酒屋名代 彦三郎断
- 一 山伏三人、本山公文名村法玉院支配 喜経院
- 一 当村職人 桶屋老人 大工老人 木挽老人 箕作老人
- 一 小酒屋 老老人 宗 七
- 一 当村々 江戸 江道法三拾里

駿府へ道法拾七里

- 甲府へ道法拾八里
- 相州小田原江道法拾里
- 箱根御関所江道法六里
- 同湖堀抜水門口へ道法式里式拾三町
- 同湖尻へ道法三里
- 富士山麓須走村へ道法五里
- 豆州三嶋宿江道法式里八丁(町)
- 豆州古奈村江道法四里三拾丁
- 松長村江道法四里式拾丁
- 沼津町へ道法三里七町
- 同所湊江道法四里
- 同所々江戸江海上船道法榧ニ相知れ不申候、凡百五六拾里之由ニ御座候
- 右者此度村々諸色御改被 仰付村差出吟味仕差上申候、本田・新田・見取場・永引・起返少々之所ニ而も無隠書上申候、若何ニ而茂書落無念有(失)之候ハ、御詮議之上何様之曲事ニも可被 仰付候、仍而如件

寛政九巳年三月

御宿村

名主 彦三郎

組頭 栄助

百姓代 宗七

同 甚兵衛

大久保加賀守領分

駿州駿東郡

平松新田

松長

御役所

(裾野市御宿 湯山芳健氏所蔵)

一 高百九拾七石六斗七升七合

一家数 式拾老軒

一村長

東西四町三拾三間
南北拾八町拾八間半

東西江六十七間
東西江三町廿六間

居村野間

居村百廿老間

南北

六拾七間

東西

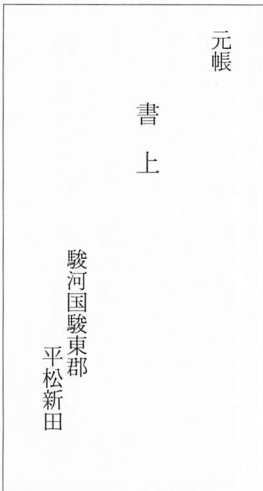
野間南北

其

(八二六)

文化二三年 平松新田書上帳(竪)

(表紙)



元帳

書上

駿河国駿東郡
平松新田

一村内御測量道筋拾三町三拾五間半

右之内式百三間之場所
東平松新田
西伊豆嶋田村

但シ伊豆嶋田村境
佐野村境迄

一村内横道六筋

此わけ

村下野間之内

東ノ方江道老筋 是ハ麦塚村道四丁程

右同断

東ノ方江行道老筋 是ハ茶畑村ノ之三嶋道六丁程

拾町

右同断

一 当村ノ隣村

西ノ方江道老筋 是ハ西沼津道堰原新田江之道三丁

東茶畑村家居迄方角寅卯道法凡拾町、其間林シ

四十式間

西ニツ屋新田家居迄方角申酉ノ方道法凡壹町五十間、

右同断

其間野間

東ノ方江道老筋 是ハ麦塚江之道三丁程

南伊豆嶋田村家居迄方角午之方道法凡拾五丁程、其

右同断

間野間

西ノ方江道老筋 是ハ沼津道ニツ屋新田江之道老町

北ハ佐野村家居迄方角亥子ノ方凡三町、其間野間

五拾七間

一 三間堀川 但シ川上者同郡佐野堰ノ流入、道法凡三拾

家並之内

町当村用水ニ仕、四町四町程下り木瀬(衍)

丑寅ノ方江道老筋 是ハ久根村迄道法凡廿四丁

川江落合申候

ノ

一 御朱印・黒印一切無御座候

駿州沼津城下江凡三里

一 寺一切無御座候

相州小田原城下江凡九里半

一 社式社

一 居村御測量道筋ニ御座候、但シ駅馬ニ而も立場ニ而も

此わけ

無御座候

八幡宮 壹社

但シ本村之義者東ノ方茶畑村ニ御座候、道法家居迄

山神宮 壹社

一名所一切無御座候

一旧跡

石塚寺ツ、是ハ建武年中佐野ヶ原合戦之節、二條中

將為冬公御討死之場所之由申伝のみニ御座候、其外

御家来中御塚之由十三程所々ニ御座候、家並之内字

座頭塚、先年努都与申座頭千人之座頭ヶ勸化仕、為

供養石地藏ヲ建立仕候由、夫ヶ此辺ヲ座頭塚与申伝

候由

一名産一切無御座候

一古城跡一切無御座候

一遠山見渡シ

富士山麓(須)深山村迄方角亥凡三里程、愛鷹山麓富沢迄

方角酉ノ方凡十五丁程、箱根山麓方角卯ノ方道法凡

廿七八丁程

右之通相違無御座候、以上

文化十三年

平松新田

名主 甚 蔵

組頭 幸 蔵

(裏表紙)
一野間之内村下三百三十八間

家並之内 三十間

家並合 式百廿九間半

家並之内 野間 九十老間

村上野間 百廿七間

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

毛 文政(二八二八)二年九月 葛山・上ヶ田・金沢三力村見分書

上帳(竪)

(表紙)

文政十一年 葛山村

駿州駿東郡御知行所三ヶ村見分書上帳

御役所

子九月 割元芹沢勝左衛門

一 高四百貳拾壹石四升四合 葛山村 荒地高共

此取米百三拾石壹斗三合 本途米

米拾八石五斗八升六合六夕 欠米出目米、三斗五升ニ

付五升ツ、延米

此米三百七拾壹俵七分三厘六毛

内引物五口合米拾八俵貳分四厘貳毛

御定式御引物

差引残而米三百五拾七俵九分八厘四毛

当子年可納御年貢也

内米百六拾壹俵貳分八厘 当子違作御損毛御引方

差引米百九拾六俵七分四毛 当子年正納米

葛山村

一 一米五石六斗

欠米出目米、三斗五升ニ付

一 高百九石四斗九升七合

一米四石貳斗五升壹夕

金沢村 荒地高共

此取米貳拾九石七斗五升貳夕 本途米

欠米出目米、三斗五升ニ

小以米三拾四石三夕五才

此俵米八拾五俵八才

引米五俵

差引残而米八拾俵八才

内米貳拾九俵三分四厘八毛

当子違作ニ付見分引方

差引残而米五拾俵六分五厘貳毛

当子正御上納米分

金沢村

一 高七拾七石四斗貳升九合 上ヶ田村

取米三拾九石貳斗

欠米出目米、三斗五升ニ付

小以米四拾石八斗

此俵米百拾貳俵

引物ノ米式俵

御定式御引方

差引残而米百拾俵

当四年可納米

内米四拾八俵三分八厘八毛

当子違作御引方引

差引残而米六拾壹俵六分壹厘貳毛

当子年正可納米

三ヶ村当年引残り全納米

米ノ三百八俵九分六厘八毛

内米八拾九俵五分 御普請所荒川除ケ御手当当金分引

差引残而米貳百拾九俵四分六厘八毛

当子年三ヶ村御年貢納米

右者当子年御知行所駿州駿東郡葛山村・上ヶ田村・金

沢村三ヶ村大違作之趣度々願書差出し候ニ付、先達而

御屋鋪様江差上申候処、其方ニ而明白之処見分可致旨

被 仰付候ニ付、三ヶ村共明細見分仕候処、三ヶ村百

姓願出候^(符)候程之訳ニ而茂無御座候得共、前書之書上通

り位ハ全御物成相減し申候趣ニ御座候、尤御定免中故

御仰之通り檢見者不仕見分ニ致申候、内々見付引候処

右様御物成米相減候分被為取候、格別之御物成米減之

段御上様并ニ御役人衆中様方御心中ニ御叶義ニ御座候

哉、御見分致義ニ候哉、御叶義ニ候ハ、御下知書被

仰付下置候様奉願上候、万一思召難御叶候ハ、早速御

在勤被仰御見分被成下候様奉願上候、駿東郡三ヶ村御

知行所之義者全体富士山近キ場所ニ而寒氣甚敷麦作仕

附後置ニ相成申候得者、麦作一切根付不申候間、若難

御叶御見分ニ御在勤被仰候ハ、一日も御差急キ被仰御

見分成被下置候様奉願上候、以上

駿東郡葛山村

文政十一年子九月日

割元 芹沢勝左衛門

江戸小川町

地頭御役所

(裾野市葛山 芹澤哲哉氏所藏)

天保七年四月 金沢村銘細書上帳(堅)

(表紙)

天保七年

駿東郡金沢村反別并銘細書差上ケ帳

申ノ四月日

元録(緑) 十一寅年

当地頭ニ成

松平内蔵允知行所

駿河国駿東郡 金沢村

寛文十二子年

野村彦太夫様 御検地
古郡文右衛門様

一 高百九石四斗九升七合

御水帳式冊

内高四斗六升

小物成五ツ取

内高壺敵歩

山崩引

此分米壹斗

内壺反九敵拾九歩

溜井敷地

此分米壺石九斗六升三合

内式敵歩

水出引

此分米式斗

内高式石三斗式升九合

申ノ荒

内高壺斗

午ノ荒

内高壺石九斗三升三合

堤敷地

内高九升

午之山崩引

此反別拾六町四反九敵拾五歩

田高中下壺町七反拾三歩

内壺反五敵歩両毛作
内残壺町五反拾三歩足入

畑反別拾四町式反式拾四歩

此分米八拾五石三斗三升四合

屋敷五反四敵八歩

八ツ森(盛)

此分米五石四斗式升七合

六八取

此訳ケ

中田六反壺敵拾九歩

拾式盛

此分米七石三斗九升六合

六ツ四分取

下田壺町八敵式拾四歩

拾盛

此分米拾石八斗八升

六ツ式分取

内壺畝歩

山崩引

此分米壺斗

是者何年先ニ御座候哉相知不申候

壺反九畝拾九歩

是ハ溜井敷地ニ相成候

此分米壺石九斗六升三合

式畝歩

水出引

此分米式斗

是者先年々水出相立地所急度相分申候

残八反六畝五歩

此分米八石六斗壺升七合

上畑四町六反七畝拾四歩

八ツ盛

此分米三拾七石三斗九升七合

式ツ壺分取

内壺町八畝六歩

延宝八年ノ田ニ成

八ツ盛

此分米八石六斗六升四合

六ツ八分取

是ハ箱根湖水掛り

残三町五反九畝八歩

畑本途

此分米式拾八石七斗三升三合

中畑式町七反壺畝拾式歩

七ツ盛

此分米拾八石九斗八合

式ツ壺分取

内三反四畝拾五歩

延宝八年ノ田ニ成

七ツ盛

此分米式石四斗壺升五合

六ツ八分取

是ハ箱根湖水懸り

残式町三反六畝式拾四歩

此分米拾六石五斗八升三合

下畑四町壺反八畝式歩

畑本途

此分米式拾石九斗三合

五ツ盛

内壺反拾四歩

延宝八年ノ田ニ成

五ツ盛

此分米五斗式升三合

六ツ八分取

是ハ箱根湖水懸り

下畑四反六畝拾七歩

式石三斗式升九合

申ノ荒

下畑式畝歩

午ノ荒

是ハ何年以前之申午ニ御座候哉相知不申候

下畑三反八畝廿歩

分米壺石九斗三升三合

堤敷地相成申候

下畑三町式反拾壹歩
残拾六石壹升八合

畑 本 途

屋敷五反四畝八歩

下々畑式町六反七畝式拾三歩

三ツ盛
三ツ五分取

〔^(付箋)屋敷壹畝廿七分 ひきつほ成 福寿院 天明九年〕

此分米八石三升六合

此分米五石四斗式升七合

内

内壹反式畝歩

延宝八年の

〔^(付箋)下々畑壹町九反四畝式拾壹歩 是ハ文政八酉年の永荒ニ相成申候

此分米壹石式斗

分米五石八斗九升七夕六才

残四反式畝八歩

残七反式畝式拾五歩

畑 本 途

此分米四石式斗式升七合

此分米式石四升六合式夕四才

一米五俵 極難渡村ニ付前々の御引方被下候分

下々畑三畝歩
九升

午ノ山崩道代引

高拾六石四斗壹升壹合七夕

是ハ何年以前ニ引候哉相知不申候

是ハ文政八酉年永荒ニ相成申候

残式町六反七畝拾六歩

畑 本 途

一新田起返り

当村ニ無御座候

此分米七石九斗四升六合

一永納

当村ニ無御座候

〔^(付箋)中畑四反四畝拾四歩 是ハ文政八酉年の永荒ニ相成申

一船 当村ニ無御座候

候

分米三石壹斗九升四合三夕

一薪竹木山之儀、葛山ノ内つかね沢と申所、御宿・上ヶ田・当村前々の入合竹木取来り申候、先年及出入ニ御

残壹町九反式畝拾式歩

裁許之上境相究申候

此分米拾三石三斗八升八合七夕

畑 本 途

一愛鷹山今里・下和田分、先年ハ入合ニ御座候所

第2章 村々の概況

- 一 萱野・芝野、大野原と申所、三里四方之原富士横道を
入合秣茹敷苗代草等茹取入合仕候、尤当村之内小あら
しよ道海草利を限り為入合申候、入合村組七拾ヶ村内
野元之村ハ印野・板妻・神場・駒門・神山・御宿・深
山・下和田・今里・金沢迄都合拾ヶ村御座候、尤今里
村境及論御裁許之上境相究申候
- 一 御伝馬宿入用 当村ニ無御座候
- 一 御林 当村無御座候
- 一 植木林 当村無御座候
- 一 百姓持林上納物 当村無御座候
- 一 御十分上納物 当村無御座候
- 一 原役 当村無御座候
- 一 鉄炮 当村無御座候
- 一 百姓持林少々畑くろニ分附御座候、猪・鹿多出候場所
故猪かこいニ仕候得ハ、木立候場無御座候
- 一 立藪 当村無御座候
- 一 浅納(マヤ) 当村無御座候
- 一 餅米納之義ハ年ニより上ケ田・金沢ニ而老儀敷式儀被
仰付次第上納仕来り申候、尤御年貢米之内御座候
- 一 大豆・小豆納 当村無御座候
- 一 御年貢米納方之儀四斗入ニ而上納仕候、御払米之節沼
津宿敷三島宿迄附送り仕来り申候、川下ケ船積之義ハ
只今迄相掛り不申候
- 一 御年貢金・小物成、納方日限無滞り上納仕候、尤例年
之格を以御下知以前百姓共江巖敷申渡し支度為致、御
日限之通り上納仕来り申候
- 一 用水字新堰と申所、御宿・上ケ田・葛山・千福・金沢
迄五ヶ村懸合之堰ニ御座候、是ハ箱根湖水村組式拾ヶ
村御座候、去ル六拾九年以前より及出入ニ今ニ相濟不申
候、右用水堀筋之儀、上堀ト申千三百間余御座候、金
沢村分九百間余水引、葛山村・上ケ田村相給安藤佐兵
衛様御知行上之田と申所へ用水引申候、年々堀さらい
修復高掛り仕来り申候
- 一 当村用水溜井長五拾間横三拾間 老ヶ所

是ハ百六拾年以前延宝六年野村彦太夫様御支配之

節ノ溜井御普請出来申候、土手長四拾八間・敷拾貳

間・馬ふみ六間之土手ニ御座候、水門・立樋・埋樋^(種)

くさり候節御入用金壹両貳分宛被 仰付御普請仕来

り申候、先年百壹年以前当地頭様土手はり附御普

請御座候所、同領村組七ヶ村高千八百石ニ五拾人之

人足御あて被成、御入用之儀ハ御地頭様被下御普

請仕立申候、水掛り村方ハ葛山村・当村計御座候、

溜井敷地田畑ニテ三石八斗九升六合右敷地相成申候

一 当村用水、小棚と申所水出口御座候、屋敷通り少々畑

成江相懸り申候、此儀ハ大野原ハ悪水大雨之節出堰何

分出来不申候場所ニ御座候、悪水堀村中を通り流末ハ

葛山村へ落申候

一 当村用水、田久保と申所出口御座候、当村分足入田通

り相懸り、水末ハ上ヶ田村へ相懸り申候、堰普請其外

相懸り不申場所ニ御座候

一 外用水・川欠・石出・蛇籠・入樋等之場所ニ御座候

一 石橋三ヶ所御座候得共村内少之橋ニ御座候

一 御年貢米納方、本石三斗五升之儀切、出目五升入四斗

入ニ而相納申候故、延米・口米前々分り不申候、田

方少々御座候、畑方多ク故納米五拾俵計正米納ニ御座

候、残米畑方之分買納ニ仕来り夏秋冬三納ニ上納仕候

様御連印御出所被下候故、夏成分六月上納仕候

一 口米・山手役 当村ニ無御座候

一 当村東西三百八拾貳間余・南北八百六拾間余、隣村東

ハ御宿村、西ハ葛山村、辰巳ハ上ヶ田村、戌亥ハ今里

村、北ハ大野原、海辺ハ南ニ当り、富士山ハ戌亥ニ当

り、愛鷹山ハ申ニ当り、鷲頭山ハ巳ニ当り、箱根山ハ

辰ニ当り、天城山ハ巳ニ当り

一 当村ハ江戸へ陸三拾里、海上ハ相知不申候

一 駿府町へ 拾九里

一 清水湊へ 拾七里

一 沼津宿へ 四里

一 甲府へ 拾里

第2章 村々の概況

- 一 東海道江ハ下石田村敷又ハ三嶋宿へ出候場所ニ御座候 一定使咄人
- 一 沼津宿へ近年加助役相当り申候、勤方之儀者丸高ニて 是ハ拾石以下ニ而麦式升・粃式升、其割を以取立申
- 殊ニ小物成高共ニ相当り相勤申候 候
- 一 掃除丁場 当村ニ無御座候 一 寺壺ヶ所 黄檗宗万念寺
- 一 御朱印 当村ニ無御座候 是ハ宇治万福寺末寺、旦那老人も無御座候
- 一 中田六畝式拾四歩 浅間領御除地 一 医師 当村ニ無御座候
- 一 中田式拾四歩 神明領御除地 一 山伏 当村ニ無御座候
- 一 下畑式反拾六歩 富士山伏免御除地 一 浪人 当村ニ無御座候
- 是ハ駿州富士郡村山池西坊・辻之坊・大鏡坊、右三 一 大工 当村ニ無御座候
- 法印天下安全御祈禱七月十六日ハ八月十六日迄三十 一 木挽 当村ニ無御座候
- 日之間富士峰を行、其外三嶋大明神当村浅間江八月 一 警女 当村ニ無御座候
- 八日ハ二夜三日御祈念所ニ御座候故御除被下、其内 一 座頭 当村ニ無御座候
- 御賄仕候 一 鉄炮式挺 持主 林右衛門
常左衛門
- 一名主咄人 是ハ村高拾五石之役料ニて相勤申候 是ハ天和年中小長谷勘左衛門様御支配之節被 仰付
- 一 組頭咄人 是ハ役料米半俵ニて相勤申候 一 所 処持仕候
- 一 御高札 壺ヶ所 一 造酒屋 当村ニ無御座候
- 一 米見升取 先年ハ組頭・百姓代仕候 一 馬拾壺疋 当村ニ御座候

一 土地ハ黒土野土之場所ニ御座候

一 田植ハ五月節ノ中迄ニ仕附申候

但シ稲ハ早・晩稲作り申候、尤おく多く御座候

一 田方種上中下共ニ耆斗

但シ畑方小麦ハ反ニ五升、大麦ハ耆斗ノ耆斗耆升迄

一 田畑小作入上

中耆反ニ付米三俵半、下耆反ニ付三俵ノ半迄

畑成田耆反ニ付三俵半ノ四俵迄

上畑耆反ニ付永四百文ノ五拾文迄

中畑耆反ニ付永四百文

下畑耆反ニ付永三百文

下々畑ハ不残荒地ニ相成申候

一 畑作、大麦・小麦・粟・稗・芋・荏・午房(粍)・大根・

菜・唐(芋脱カ) 右之者作申候

一 田畑こやし

田畑耆反ニ付三拾駄ノ四拾駄迄入申候

一 稲種之儀、早稲少々晩多く作り申候

一作之間男ハ炭・薪、沼津宿・三嶋宿へ駄賃取仕候、女

ハ竹木山出シ仕候

一 百姓夫喰年中粟・稗・唐芋・大根・菜・大麦・小麦遣

申候、尤大麦・小麦之儀ハ山中故年々違申候

一 空地上ケ田村之上ニ少々場所御座候長三拾間余
横式拾間余

御宿村・上ケ田村当村境ニ御座候

一 田畑新田之場所

一家数式拾七軒大小共、尤無田・水吞無御座候

内拾耆軒潰ニ相成申候

一人別六拾六人 内男三十六人
女三十拾人

右之通り御尋ニ付、今般委細相改書上ケ申候所相違無御

座候

天保七申ノ三月日

秣芝草茹取

駿東郡金沢村

組頭 弥左衛門

同断 忠右衛門

御役所

百姓代 新太郎

(裾野市葛山 芹澤哲哉氏所蔵)

五
慶応四年七月 石脇村差出帳(豎)

(表紙)

慶応四戊辰年
駿州石脇村
駿東郡石脇村差出帳
七月

中田三町四反八畝七步

石盛拾貳

分米四拾壹石七斗八升八合

(朱筆) 「内四畝拾步 享保年中より畑成上畑取」

下田三町五反六畝拾步

石盛拾

分米三拾五石六斗三升三合

(朱筆) 「内八畝五步 享保年中より畑作上畑並永取」

(朱筆下札) 「朱筆之分何れ茂分米より上より入可申」

下々田四反壹畝貳拾九步

石盛八

分米三石三斗五升七合

上畑五反拾八步

内

六畝三步

亥年より上田ニ成、(根脱カ)箱水掛り

分米四石五斗五升四合

中畑九反三畝貳拾四步

内

壹反貳畝貳拾七步

亥年より中田ニ成、箱根水掛り

分米六石五斗六升六合

駿州駿東郡石脇村

一 高百五拾七石貳斗壹升九合

田畑辻

此反別拾五町七反五畝五步

上田三町三反壹畝貳拾步

石盛拾四

分米四拾六石四斗三升三合

下畑貳町壹反貳拾七步

内

貳反四畝拾三歩 亥年々下田ニ成、箱根水掛り

分米拾石五斗四升五合

(朱筆)
「壹畝拾五歩」

貳畝六歩

去酉砂入当分不起
去子々郷蔵屋敷引

一 高貳石三斗五升壹合

分米三拾石八合

畑数合四町九反六畝貳拾九歩

分米百貳拾七石貳斗壹升壹合

元禄十六末々高付申候
(符)

反別貳町三反五畝四歩

石盛壹ッ

内

六畝貳拾八歩

寅新野畑

(朱筆)
「壹反壹歩」

去寅砂入当分不起

下々畑八反三畝六歩

内

貳拾四歩 亥年々下々田ニ成、箱根水掛り

(朱筆)
「拾歩」

去酉砂入当分不起

一 山役米壹斗

毎年納也

一 御年貢米

但三斗七升入

分米貳石四斗九升六合

一口米本米壹石ニ付三升宛

但三斗九升五六合

屋敷五反八畝拾四歩

石盛拾

一口永本永壹貫文ニ付三拾文

内

四畝貳拾九歩

一 大豆壹石貳斗八升九合

但五年已前戌年迄者三斗五升ニ上納仕候処、亥

分米五石八斗四升七合

年御用捨故三斗七升ニ被仰付、但シ三斗九升

高合百五拾七石貳斗壹升九合

五六合々四斗

田数合拾町七反八畝六歩

代永貳百三拾三文被下候

一 糖菓繩廷之代金三分銀拾貳匁六分四厘 毎年上納仕候
一家並薪拾壹駄

本百姓壹軒ニ付壹駄宛、但小百姓者
二三軒、組合壹軒分も御座候、毎年
上納仕候

代永壹分銀拾貳匁五分 但壹駄ニ付銀貳匁五分

一 御買山枘式升五合宛ニ納申候 但壹升ニ付三拾八文宛代
物被下候

一 御拾分一出様 貫板長木之儀者五拾年已前々差上申候
薪之儀ハ貳拾四五年已前々差上申候
萱之儀ハ拾五年已前々差上申候

一 夫食米壹割半之利足ニ而一二月時分御借り仕、二元利共
壹ヶ年切ニ差上申候 〔宋筆〕
「但當時壹割式分之利足ニ而拝借仕候」

一 一名主五厘引 本米百石ニ付五斗 名主被下候
本永拾貫文ニ付五拾文

一 持高之内三拾石名主壹人ニ御引被下 但糠菓繩廷掛申候
〔宋筆〕
「但當時名主無之候ニ付帳元ニ被下置候」

一 持高之内拾石村人足壹人ニ諸役御引被下候
但鉄砲壹挺玉目三匁

一 田地囲用水堰普請人足、下郷拾四ヶ村御積ヲ以惣村割
合ニ而普請仕候、当村堰人足四拾人程宛毎年入申候、

御扶持被下候儀も御座候、堰川除共大破之時者御奉行
様仕付被下、御普請被遊被下候

一 御役人様方在々御通行之節、伝馬人足・薪・野菜出申
候

〔宋筆〕
「但當時差上不申候」

一 水窪・伊豆嶋田両所御拾分一場御普請之節、諸道具人
足出申候

〔宋筆〕
「但右両村水野出羽守様御領分ニ相成候已
来相勤不申候」

一 下土狩御藏御普請之節、諸道具人足御差図次第出シ申
候、何レ茂竹木之儀者神山・下和田山ニ而取出申候

〔宋筆〕
「但先年村々江郷藏出来候已来差出不申
候」

一 下土狩御藏添番式人、下筋拾式ヶ村ニ而抱置、給米遣
し申候

〔宋筆〕
「但前同断」

一 箱根御番所御柵木并ニ片竹被下結人足、下郷拾四ヶ村

ニ而出申候、御柵木茂下郷十四ヶ村ニ而出申候

一箱根御番衆江下土狩御蔵御扶持米弘之人馬御用次第差出申候

一当村之内佐野堰之儀、前々者自水在所石脇・佐野・他

領久根村、此三ヶ所堰組ニ而御座候、箱根堀抜水已來

公文名・稲荷・茶畑・平松新田・伊豆嶋田・二ツ屋村
数拾ヶ村堰組ニ而御座候

(朱筆)
一但當時村々助合無之候ニ付、大破之節者
御地頭所様を拜借御下ヶ金被成下、無

利足拾ヶ年賦ニ上納仕候

一薪取申候山、稲葉主水様御知行所深良村山ニ而取申候、

萱・薄・かりしき・馬之草・薪之儀者大野山ニ而神山

村・駒門村野・今里村野・下和田村野・深山村野・印

野村野・沼津領国領半兵衛様御支配所御宿村野・上ヶ

田村野・金沢村野ニ而取申候、苗代草之儀も右村々野

作場之久根林ニ而取申候

一槻之儀堅御法度被 仰出候、家作仕候節奉願候得者被

下候事

一内林居久根竹木之儀者御免ニ而百姓勝手次第ニ伐取申候

一当村の道法 小田原御札之辻迄九里式拾七町五拾七間

御殿場御札之辻迄三里廿丁四拾九間

岩波村名主前迄廿七町廿五間

佐野村名主前迄九町五拾七間

今里村名主前迄巷里拾一町十六間

一当村の北東稲葉主水様御知行所深良村境、南佐野村境

西沼津領国領半兵衛様御支配所千福村・御宿村境ニ而

御座候

一麦・粟納不申候、柿渋・紅花・麻・真綿も納不申候

一浪人・医師・外科共ニ無御座候

(朱筆)
一捨子有之候節者、一日米五合雜用とし

て錢拾六文宛被下置候

一 九拾才以上之者江者年々米三俵宛被下

置候事

一紺屋老軒

本瓶老ツ
脇瓶老ツ 御役金式朱宛一枚橋村へ納申候

(朱筆)
一但當時御座無候

一 鍛冶・大工・木挽・桶屋・白楽共ニ無御座候

一 当村家数三拾七軒 組頭三軒
内本百姓十九軒
無田拾五軒

一 当村人数合百八拾貳人 内男九拾六人
女八拾六人

一 馬七疋

木橋壺ヶ所長二間、此橋木今里村・下和田村・

深山村三ヶ村ニ而出シ申候

木橋壺ヶ所長五間半、沼津領千福村境ニ掛申候、

此橋木下和田山ニ而取、西之根八ヶ村ニ而掛申

候

一 橋六ヶ所 木橋壺ヶ所長四間、槻被下引人足下筋十二ヶ村

ノ引人足被下掛申候

木橋壺ヶ所長四間、槻被下引人足下筋十二ヶ村、

尤前々ハ土橋ニ而御座候処、箱根掘抜已来土橋

ニ而不相成候ニ付、先御代々橋木被下候

石橋式ヶ所、村中ニ而掛申候

明神壺社 高貳尺三寸
横壹尺三寸 但ほこら

一宮数合三社内 神明壺社 高同断
横同断 但 同

山之神壺社 高壹尺五寸
横壹尺 但 同

右之通水帳奥書田畑反別并諸色書付、少茂無偽前々之通

書上申候、尤事実相變り候分者朱書ニ而書入奉差上候、

若脇ノ相違之段申出候ハ、何様之曲事ニ而茂可被 仰付

候、為其名主・組頭・惣百姓判^(形)行仕差上申候、為後日仍

如件

石脇村

慶応四戊辰年七月

組頭 弥 四郎

同 源 藏

同 又 四郎

百姓代 友 藏

地方御役所

(裾野市石脇 大庭 力氏所藏)

〇 (二八六八)
慶応四年七月 麦塚村指出帳(竖)

(表紙)

慶応四戊辰年
駿河国駿東郡麦塚村指出帳
七月

駿州駿東郡 麦塚村

一 高式百拾三石壹斗壹升六合

反別式拾壹町八反三畝拾式步

此訳

田方拾式町九反拾壹步

内

上田七町壹反九畝拾式步 石盛十四

壹畝步 当分土手敷ニ成

壹畝拾八步 年々川欠

四畝拾三步 水掛り悪敷畑作仕附上畑取

壹町五反式畝八步 水掛り悪敷畑作仕附上畑取

分米百石七斗壹升六合

一 中田三町壹反壹畝九步 石盛拾式

内

壹畝壹步 西川欠

九反五畝八步 水掛り悪敷畑作仕附上畑取

壹畝步 去亥御改之処、川欠未不地

成五ヶ年御用捨

分米三拾七石三斗五升三合

一 下田壹町六畝拾四步 石盛十

内

壹反壹畝壹步 水掛り悪敷ニ付畑作仕附中畑取

拾七步 寅川欠

分米拾石六斗四升七合

一 下々田壹町五反三畝六步 石盛八

内

老叡式拾六歩

水掛り悪敷畑作仕附下畑取

屋敷六反六畝九歩

石盛拾

^(付巻)一内二畝拾五歩

二ツ

内六畝式拾八歩

名主老人ニ被下候

分米五石四斗壹升式合

分米六石六斗三升

拾歩

去亥御改之処、川欠未

高合式百拾三石壹斗壹升六合

不成成分五ヶ年御用捨

田数合拾式町九反拾壹歩

分米拾式石式斗五升六合

分米合百六拾石九斗七升五合

一畑方八町九反三畝壹歩

畑数合八町九反三畝壹歩

内

分米合五拾式石壹斗四升壹合

上畑壹町七反壹畝拾八歩

石盛九

一御年貢米表^(俵)ニ三斗七升入、但シ廻シ三斗九升五六合

分米拾五石四斗四升四合

一口米本米壹石ニ付三升宛

中畑貳町六畝六歩

石盛七

一口永本永壹貫文ニ付三拾文ツ、

分米拾四石四斗三升四合

一米五斗

山役上納

下畑壹町八畝七歩

石盛五

一名主給五厘引

本米百石ニ付五斗
本永拾貫文五拾文

分米五石四斗壹升式合

屋・新田共郷藏敷地引

一持高之内拾石諸役名主老人御引被下候、但シ糖菓蒞之

下々畑三町四反式拾壹歩

石盛三

内九畝壹歩

酉年より下々田ニ成ル

一懸^(マ)り上納仕候

一 田地囲用水普請、先年ハ下筋ヲ拾式ケ村御積リヲ以、

近年ハ村切ニ被 仰付候、当村普請人足壹年ニ九拾人

程ツ、遣し申候、但シ御扶持米被下候儀茂御座候

一 大水出候時分御田地破損河除時分御奉行被 仰付、御

見分之上人足被下普請仕候、年ニ御扶持方被下候儀

茂御座候

一 御役人様方御通り之節、伝馬人足御用次第出し申候、

御泊ニ者薪・野菜出し申候

一 御殿様御一宿被 遊候節者、御賄人足・薪・野菜出し

申候、御伝馬箱根迄相立申候、御厨江御通り被遊候へ

ハ神山村へ次相立申候

一 御国廻り之御奉行様御通り被遊候節ハ、佐野村々沼津

迄伝馬人足出し申候

一 薪・馬草・苧敷取申候場、村々東ニ而茶畑通り草山迄

道法三拾丁々式里余参り候、薪取申所者式里より三里

位参り候、但シ茶畑・麦塚壺所ニ入込申候

一 馬草・苧敷・薪取ニ豆州佐野村山江参り候得共、近頃

者入込不仕候

一 苧敷・馬草、大野山ニ而須山・印野山・神場野・駒門

野

右之内ニ而何方ニ而も参り苧申儀茂御座候

一 九拾年ニ罷成候者有之候節ハ、其段御注進申上候

得者御扶持米三俵可被 下置候

一 捨子有之候節ハ、御扶持米一日ニ付米五合、雑用

与して錢十六文宛之積を以年々被下置候

一 当村御田地用水之儀者、川上伊豆佐野村・茶畑村、清

水川出口山沢并ニ公文名村・久根村段々川筋ニ御座候

得とも、前々々堰切之儀者無御座候、尤当村堰切村茂

無御座候、勿論堰留ニ仕、東之方ニ而少し明置申候

一 当村御田地拾式町九反余之内拾町余、伊豆・駿河境川

水掛り、残り式町八反余堀抜懸り、字佐野堰上ノ佐

壱・久根・公文名・茶畑五ヶ村を通り道法壺里余も参

候ニ付、内々ニ而者水面兼申候、其節者御奉行衆御越

し水御指引被遊被下候

第2章 村々の概況

(付箋)
一 参り候ニ付水届兼申候、其節御奉行様御越、水御指

引被遊被下候処、流末故用水不足ニ付、去ル享保年

中ノ畑作仕附ニ相成申候

一 当村橋数拾七ヶ所、但シ石橋・土橋皆小橋ニ御座候故、

村ニ而仕候

一 当村境、北者茶畑村、西者平松新田、南伊豆嶋田村、

東ハ豆州佐野村、但シ伊豆・駿河境川御座候

一 真綿・紅花無御座候

一 当村伯楽・大工・木挽・紺屋・桶屋・医師・鍛冶・浪

人無御座候

一 当村郷筒・村筒無御座候

当村より江戸日本橋迄式拾九里半ニ御座候

小田原迄箱根通り九里十式丁御座候

御殿場御札場迄四里拾九丁余御座候

一 当村ノ道法 伊豆嶋田御札場迄拾丁四拾間御座候

茶畑村迄五丁五拾間御座候

三嶋宮之前御札場迄壹里拾式丁拾八間

(場欠カ)
沼津御札迄式里拾丁御座候

名主壹軒

組頭壹軒

本百姓式拾四軒

一 当村家数三拾四軒内

内壹軒明屋敷

定使壹軒

無田八軒

内式軒明屋敷

一 当村人数合百七拾壹人

内男九拾五人
内女七拾六人

一 当村馬数拾式疋

一 高八斗六升七合

本寺駿州桃園村定輪寺末
禅宗 本光寺

寺内屋敷八畝式拾歩前々ノ御除被下候得共、証文ハ

所持不仕候

石盛十

一 宮三社

内

見目明神宮壹社

高サ三尺五寸
横式尺三寸 板葺

社地御見捨
壹畝歩

第2章 村々の概況

神明宮老社

社地御見捨
六歩

高サ貳尺五寸
横老尺五寸

板葺

山神宮老社

社地御見捨
貳歩

高サ貳尺貳寸
横老尺三寸

板葺

一 高老石五斗

右三社江老社ニ社領下々畑五反歩御除地 盛三ツ

右之通り水帳奥書田畑反別并諸色書附、少茂無偽前々之通書上申候、若脇々相違之段申出候ハ、何様之曲事ニ茂可被 仰付候、為其名主・組頭・百姓代判形仕指上申候、為後日仍而如件

慶応四戊辰年

駿州駿東郡麦塚村

七月

名主 藤 蔵

与頭 太 吉

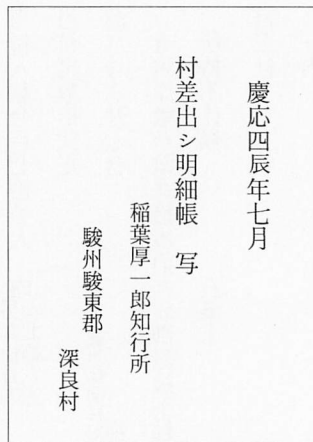
役人代 要 七

百姓代 忠 蔵

(裾野市麦塚 勝俣恵一朗氏所蔵)

二 (二八六八)
慶応四年七月 深良村明細帳(竪)

(表紙)



一村高千四百七拾三石老斗五升九合 深良村

此石盛 田方十四・十二・十・八 屋敷十
畑方九・七・五・三

此訳

田方九拾老町四反四畝廿七歩

西分上田六斗七升・中田五斗九升・下田五斗一升・

下々田貳斗九升

此取米 東分上田五斗八升・中田五斗一升・下田四斗三升・
下々田壹斗八升

下地中田三斗六升・下地下田貳斗九升、合十種

畑方五拾四町七畝拾歩

此取永上畑永百六十文・中畑百四十文・下畑百文
下々畑四十文・野畑廿八文・山畑貳拾五文

屋敷四町六反壹畝八歩

此取永壹反ニ付永貳百文

右村高之内

免地壹町五反拾八歩

内田方三反貳畝廿八歩
畑方壹町壹反七畝廿七歩

一家數貳百三十八軒 本百姓百五十五軒
無田百姓八十三軒

但名主貳軒・組頭六軒・神主壹軒・修験壹軒

一人數千百五人 社人貳人 修験壹人
僧 九人 醫師壹人

但男五百七十七人 女五百廿八人

一 地頭所林壹ヶ所 但堅七十五間・横四十間
雜木・竹類無御座候

一 御高札 五枚 深良村
久根村

但正徳年中 二枚 修覆等之儀も両村掛ニ御座候

明和年中 二枚

天明年中 壹枚

一宮數三十社

弁才天 地頭所々御供米貳表^(俵)ツ、年々被下置候

赤子宮 免地四斗ニ 氏子附

神明宮 免地七斗九升五合 同断

駒形宮 免地四斗三升五合 同断

八幡宮 免地壹石壹斗六升 同断

神明宮 免地無御座氏子附ニ御座候

右之外廿四社之儀者免地・氏子等も無之少社ニ御座候

間、委細書上不申候

一寺 七ヶ寺

駿東郡定輪寺末

禅宗興禅寺

江戸増上寺末

浄土宗西安寺

江戸増上寺末

浄土宗松寿院

免地高貳石四斗四升八合

免地高九石九斗式升

興禪寺末
禪宗文明寺

免地高式石六斗式升式合

同末
同宗定泉寺
無住

免地高壹石六升七合

同末
同宗養福寺
無住

免地高四石三斗分

西安寺末
浄土宗西福寺
無住

一堂 式ヶ所

但 庚申堂
観音堂

此外二ヶ所、地藏堂・観音堂有之候得共、書上不申候

一堤長七百式拾間

御普請所

右者寛文中箱根湖水より山中堀貫用水引取申候、此用

水掛井組合廿九ヶ村ニ御座候、依之深良村上江新ニ堤

築立其後破損之節者其時々御国役御普請被仰付御修覆

被下置候事

一御水帳 四冊 名主預ニ相成居申候

右者延宝年中稲葉美濃守様御檢地帳

一御收納米 下ハ三嶋・沼津兩所迄附送
上ハ竈新田迄附送申候

一右表入^(俵) 四斗入ニ御座候

但本石壹石ニ付口米三升ヲ加へ三斗七升之表、尤も

納方ハ四斗入ニ仕候、表拵ハ茶かぶりニ御座候

一口永ハ永壹貫文ニ付永三十文ツ、に御座候

一御取箇 破免之村方ニ付、秋土用ニ入御檢見として御

出立御見分之上御取箇御取極被仰付候

但御出郷之節上下御扶持方として御壹人ニ付米壹升

ツ、之積ヲ以御人数分被下置候

御役人御迎御送り共三嶋宿まで村人足差出申候

一田方用水 字黄瀬川・字西川・字箱根湖水とも三水ヲ

相用流末ハ久根村江落合申候

一道法 江戸表迄凡三十里、駿府迄十八里余、沼津駅迄

三里半、三嶋駅迄式里半

一方角 富士山戌亥之方ニ当、愛鷹山西ノ方、箱根山東

ノ方ニ当り申候

一村内堅横 南北長廿四町廿間余 佐野村境より
岩波村境まで

東西幅拾八町余 山際を御宿・石脇境まで

但し東ハ箱根山続き字駿河戸山峰通り水分境ニ御座

候、此岳まで凡弍里程御座候、此峰北ハ神山村

山さかひ、南ハ茶畑村山境ニ御座候

右山中西表深良村分内六百間余、東表仙石原村分内百五十間余、都合七百五拾間余、寛文年中堀貫湖水引取申候

一 秣刈敷場

村内山中ハ勿論其余ふじ山麓大野原一円入会場にて勝手次第刈取、御田地養申候

一 農間稼

三嶋宿・沼津宿等へ薪附売、并商人荷物附運駄賃稼等仕候

一 村役人

名主弍人 地頭所を老人ニ付米三表ツ、都合六表被下置候、外ニ屋敷地御年貢御免

除村方が高三十石ツ、合六十石諸役

相除御座候

組頭六人

地頭所を老人ニ付米壹俵ツ、六人江

六表被下置候、外ニ村方が高十石ツ、

合六十石諸役相除御座候

一 酒造稼 壹株

古株六十石造天保十三寅年御改ニ而、廿四石造之御鑑札被下置候

一 百姓飢人当無御座候

難村ニ付度々地頭所を御救米被下置相助り申候

一 地頭所を拝借

慶応二寅年御米五十表無利足五年賦濟ニ而拝借、昨卯年十表返上納相濟殘四ヶ年納分御座候

一 村方借用金

近年追々疲弊仕候ニ付、諸所ニ而多分之借用いたし漸御伝馬等相勤居申候

一 地頭所賄金

先年を御勝手賄金として先納仕、去卯年暮を月々五十兩ツ、出金、其外諸臨時金等長百姓割合上納仕年々御收納米ニ而元利差引相濟申候

(裾野市深良 松井保博氏所蔵)